0040295-000

61−411

同仁会中華民国水災救護診療事業報告

同仁会・編

同仁会

昭和７

AGI

國水災救護診療事業報告

昭和六年十二月

昭和六年十二月

同仁會

中華民國水災救護診療事業報告

財團法人
同仁會

引　言

一、本年の夏期に於ける漢口地方の水害に對し我が同仁會が善隣同愛の見地より直ちに救護班を組織し又藥品衛生材料等の寄贈を計畫し鋭意之が救濟に赴かんとしたるは同會の事業精神に鑑み最も機宜を得たるものと云はなければならぬ。

一、然るに事業半ばに於て滿洲事變突發の爲め寄贈品の大部分は國民政府の拒絶する處となり救護班の一部も現地より引揚げなければならぬことゝなつたのは頗る遺憾であつたが、併し同仁會としては既に其爲すべきを爲し盡すべきを盡したので假令ひ所期の目的が十分に達成せられなかつたとしても是亦不得已次第と云はなければならぬ。

一、本書は即ち右救護事業に關する計畫並に經過の顚末を叙說したものであつて當時本事業に對し直接又は間接に同情を寄せられ若しくは援助されたる各方面に對する一の報告に過ぎないのである。

只だ此處に御謝びしなければならぬのは仕事が可なり複雜であつた爲に記述の順序も前後し又重複した處もあつて編纂よろしきを得なかつた點であります。

一、終りに本事業遂行に付多大なる援助を與へられし外務省及び上海、漢口兩總領事館並に中華民國水災同情會に對し深甚なる謝意を表すると共に、是が指導監督の衝に當られたる文化事業部長坪上貞次氏、事業資金の調達に付特に配慮を煩はされたる同情會副委員長たりし兒玉謙次氏に對し特に敬意を表せんとするものである。

昭和六年十二月

同仁會理事　小　野　得　一　郎

目次

第一章　緒　言……（一）
第二章　救護計畫並ニ實施要領……（二）
第三章　資金ノ調達……（五）
第四章　武漢ニ於ケル被害ノ狀況……（七）
第五章　各診療班ノ編成及其活動……（一二）
　第一節　漢口醫院診療班（總務部・第一班、第二班、豫備班）……（一二）
　第二節　青島醫院診療班（第三班）……（一八）
　第三節　留日中華醫師團診療班（第四班）……（二〇）
　第四節　傭船湘江丸……（二五）
第六章　藥品材料ノ寄贈……（二六）
　第一節　赤痢豫防內服藥……（二六）
　第二節　調辨ノ藥品……（二八）

第三節　勸誘寄贈ノ藥品……（三〇）
第七章　慰問使派遣……（三七）
第八章　經　　費……（四一）
第九章　結　　言……（四一）

附　錄

一、同仁會診療班（漢口醫院編成第一第二及豫備班）經理規定……（四三）
二、同仁會診療班（第三第四班）經理規定……（四六）

61-411

同仁會中華民國水災救護診療事業報告

第一章　緒　言

中華民國今次ノ水害ハ百年未曾有ノ大慘事デアッテ、被害區域ノ廣汎ナル罹災民ノ夥多ナル誠ニ驚クベク、中ニモ長江流域ノ如キ五省十數萬方里ニ跨リ家財ノ流亡、人畜ノ死傷共數ヲ知ラズ、殊ニ中支ノ大都市タル漢口一帶ノ慘狀ニ至ッテハ殆ンド言語ニ絕スルモノガアル。此時ニ方リ卒先シテ之ガ救護ニ赴クハ寔ニ善隣國民當然ノ責務ト謂ハナケレバナラヌ。嚮キニ吾ガ　天皇陛下ニハ畏クモ御內帑金ノ御贈與及御下賜ヲ仰出サレ、以テ範ヲ國民ニ垂レサセ給フ。サレバ吾等國民ハ此仁慈ナル聖慮ヲ拜スルニ及ンデ益々感奮興起セザルヲ得ナイノデアル。

大凡水害ノ慘禍ハ交通ノ杜絕、糧食ノ缺乏、匪賊ノ橫行、產業ノ荒廢等相繼デ來ルベキハ當然デアルガ、就中最モ恐ルベキハ不衞生狀態ニ起因スル惡疫ノ蔓延デアル。殊ニ長江ノ減水ハ極メテ緩漫ナル爲メ水浸長日ニ亘ルノ結果ハ此レ等ノ慘害モ一層甚シキモノアルベキハ想像ニ難クナイノデアル。

同仁會ハ多年醫事衞生ノ方面カラ中華民國ノ文化ニ貢献セント欲シテ、已ニ中國各地ニ病院ヲ經營シテ居ル、從テ同國今次ノ水害ヲ耳ニスルヤ直ニ理事會ヲ召集シテ救護ノ計畫ヲ協定シ、迅速ニ之ガ實行ニ着手シ得タノハ同會事業ノ本旨ニ鑑ミテモ蓋シ當然ノ企圖ト云ハネバナラヌ。然ルニ不幸ニシテ滿洲事變ガ突發シ、國民感情ノ惡化ヲ來シタ結果、事業半ニシテ所期ノ目的ヲ貫徹シ能ハザルニ至ッタノハ頗ル遺憾ノ至リデハアッタガ、旣ニ其爲スベキヲ爲シ盡スベキヲ盡シタル上ハ、所謂人事ヲ盡シテ天命ヲ待チタルモノト云フベク、又以テ自ラ慰ムル所アリト云ハナケレバナラヌ。

以下章ヲ逐ウテ救護ノ計畫、事業ノ經過ニ就テ叙說スルコト、スル。

第二章　救護計畫並ニ實施要領

同仁會ハ各方面ノ情報ニヨリ中華民國ノ水災慘狀ヲ耳ニスルヤ、取敢ヘズ八月十三日ヲ以テ漢口醫院長ニ對シ『此際水難患者救護ニ付十分ニ努力アリタシ特ニ要スル經費ハ補助スベシ』トノ電報ヲ發シ、其ノ後詳報ノ蒐集及救護ノ方法ヲ講究ノ上、八月二十二日理事會ヲ召集シテ左記ノ救護計畫ヲ決定シタ。

一、救護診療ニ關スルモノ

1. 漢口醫院ノ職員ヲ總動員シテ救護班ヲ編成セシメ、尙必要ニ應ジ青島、濟南、北京各醫院ヨリモ順次數班ヲ組織シテ現地ニ派遣シ救護診療ニ從事セシムルコト

2. 日本在留ノ中國醫學生醫師ニシテ祖國ノ急ニ赴カントスルモノヲ募集シ、診療班ヲ編成シテ同ジク現地ニ赴カシムルコト

・右各班ノ活動ニ便セシムル爲メ病院船ヲ傭入レ、別ニ小艇數隻ヲ附屬セシムルコト

二、藥品衛生材料寄贈ニ關スルモノ

1. 此際特ニ必要ナル藥品材料ヲ購入シ、又青島、濟南各醫院ニ保有シ居ル在庫遠用品ヲ取纏メ、國民政府救濟水災委員會ニ寄贈スルコト

2. 各藥種商材料商等ニ寄贈方ヲ勸誘シ、之ガ蒐集、發送、配給等ノ斡旋ヲ引受クルコト

更ニ九月十一日開催ノ理事會ニ於テ

本會專務理事小野得一郞ヲ現地ニ出張セシメ左ノ任務ヲ行ハシムルコト、卽チ

1. 國民政府ニ對シ同仁會ヲ代表シテ水災ノ慰問ヲナスコト

2. 各診療班活動ノ統制及視察

3. 漢口醫院職員ニ對スル慰問

ヲ爲サシムルコトヲ決議シタノデアル。

而シテ右諸計畫ノ實施ニ就テハ直ニ諸般ノ活動ヲ開始シテ萬遺漏ナキヲ期シタノデアルガ、當時本部カラ各方面ニ發シタ實施要領ハ左ノ通リデアル。

同仁會漢口醫院救護診療班編成及業務實施要領

一、長江未曾有ノ水災ニ依リ漢口醫院職員ヲ以テ診療班ヲ編成シ漢口地方ニ於ケル罹災傷病者ノ診療並ニ防疫事業ニ任セシム。

二、診療班ノ編成左ノ通リ。

1. 第一班（十名）

班長	醫長	一
班員	醫員	二
同	調劑員	一
同	事務員	一
同	看護婦	四
同	通譯	一

2. 第二班（十名）

班長	醫長	一
班員	醫員	二
同	調劑員	一
同	事務員	一
同	看護婦	四
同	通譯	一

3. 豫備班（八名）

班長	醫長	一
班員	醫員	一
同	調劑員	一
同	事務員	一
同	看護婦	四

4. 各班行動統制ノ爲メ漢口醫院長ハ必要ニ應ジ總務部ヲ設クルコトヲ得。

三、本診療班ハ漢口醫院長ニ於テ編成ス其出動ニ方リテハ中國側救濟委員ト連絡提携シテ行動上遺算ナカラシムルコトヲ要ス。

四、班長ハ漢口醫院長（總務部長）ノ指揮ヲ受ケ班員ヲ指導監督シ診療防疫一切ノ業務ニ任ズ。

班員ハ班長ノ命ヲ受ケ診療防疫ニ關スル一切ノ業務ニ服ス。

五、診療及防疫事業ノ地域ハ漢口漢陽ノ二市ヲ主トシ要スレバ其上下流ノ地方ニ及ボスモノトス。

六、診療及防疫事業ノ實施期間ハ約三ケ月ト豫定ス。

七、診療班ニ要スル醫療器械器具及藥劑材料ハ漢口醫院ノ在來品及臨時調辨品ヲ以テ充實スルモノトス。

八、診療班ニ要スル資金ハ本部ヨリ漢口醫院長（總務部長）ニ交付ス諸給與並ニ諸經費ノ支出ハ別ニ定ムル經理規定ニ依ル。

九、漢口醫院長（總務部長）ハ業務終了後十日以內ニ業務報告及會計經理ニ關スル一切ノ書類及計算書證憑書ヲ整備シ本部ニ提出スルモノトス。

同仁會青島醫院救護診療班編成派遣及業務實施要領

一、長江未曾有ノ大氾濫ニ依リ先ツ漢口ニ診療班チ派遣シ同地方ノ罹災傷病患者ノ救護ニ任セシム。

二、診療班ノ編成左ノ通リ。

班長	醫長	一	
班員	醫員	二	內一ハ中國人
同	調劑員	一	
同	事務員	一	
同	看護婦	四	
同	雇傭人	若干	中國人トスルコトチ得

三、診療班ハ九月上旬青島醫院長擔任ノ下ニ青島ニ於テ編成シ直チニ出發セシム。
診療班派遣地ニ到著セバ漢口醫院長ノ指揮下ニ入ラシム。

四、班長ハ所屬院長ノ指揮チ受ケ救護一切ノ業務ニ任ス。
班員ハ班長ノ命チ受ケ診療及之レニ關スル一切ノ業務ニ服ス。
班長以下ハ救護ニ關シテハ晝夜兼行之レニ當ルベキモノトス。

五、救護實施ノ地域ハ漢口チ主トシ餘力アラバ其ノ附近若クハ其ノ上下流地方ニ及ボスモノトス。

六、診療班ノ編成完結ヨリ解散迄ノ期間ハ約二ケ月ト豫定ス。

七、診療班ノ携行スベキ醫療器械器具及藥劑材料ノ整備ハ青島醫院長之チ擔任シ整備不能ノモノハ本部ニ請求スルモノトス。

八、診療班ノ解散地ハ編成地トスルモ時宜ニヨリ上海トスルコトチ得此場合ニハ豫メ本部ノ承認チ受クベキモノトス。

九、診療班ニ要スル經費ハ本部ヨリ班長ニ交附ス諸給與竝ニ諸經費ノ支出ハ別ニ定ムル經理規定ニ依ル。

一〇、班長ハ業務終了後一週日以內ニ業務報告及會計經理ニ關スル一切ノ書類及計算書證憑書チ整備シ青島醫院長チ經テ本部ニ報告スルモノトス。

留日中華醫師團救護診療班編成派遣及業務實施要領

一、長江沿岸水難傷病者救護ノ爲第四診療班チ編成シ同地方ニ派遣ス。

二、本診療班ノ編成左ノ通リ。

班長	兼指導者　醫長	一	（日本人）
班員	醫長醫員	四	（中國人）
同	調劑員	一	
同	事務員	一	
同	看護婦	五	
同	雇傭人	若干	

班員ハ狀況ニ依リ若干增減スルコトチ得。

三、本診療班ハ九月中旬東京本部ニ於テ編成シ直チニ出發セシム本診療班派遣地ニ到著セバ漢口醫院長ト連絡シ尙漢口總領事ノ指示チ受ケ救護ニ任ズ。

四、班長ハ班員チ指導監督シ救護一切ノ業務ニ任ズ。
班員ハ班長ノ命チ受ケ診療及之レニ關スル一切ノ業務ニ服ス。

五、救護實施ノ地方ハ漢口以外ノ地區トシ武昌チ主トシテ尙其上下流地方ニ及ボスモノトス。

六、本診療班ノ編成完結ヨリ解散迄ノ期間ハ約二ケ月ト豫定ス但狀況ニ依リ尙一ケ月以內チ增加スルコトアルベシ。

七、本診療班ノ携行スベキ主要ナル醫療器械器具及藥劑材料ハ本部之チ整備シ班長ニ交附ス其他細部ノ必要品ハ班自體ニ於テ之レチ充實スルモノトス。

八、本診療班ノ解散地ハ編成地タル東京トス。

九、診療班ニ要スル資金ハ本部ヨリ班長ニ交附ス諸給與竝ニ諸經費ノ支出ハ別ニ定ムル經理規定ニ依ル。

一〇、班長ハ業務終結後十日以內ニ業務報告及會計經理ニ關スル一切ノ書類及計算書證憑書チ整備シ本部ニ提出スルモノトス。

第三章　資金ノ調達

本計畫ノ實施ニ要スル資金ハ當初之ヲ大方ノ義捐金ニ據ルベク方針ヲ定メ、先ヅ本會役員諸氏ノ奮起ヲ促ス爲メ各理事ノ連名ヲ以テ八月二十三日附左記募集狀ヲ發送シタ。其文ニ曰ク

拜啓残暑の候益々御清適奉賀上候陳者同仁會は支那今次の水災に關し去る廿二日理事會を開催し隣邦罹災者の爲に別紙の通り救護の計畫を議決致し候然るに現地の慘害は刻々に急迫を告げ救助一日を緩うする能はさるが故に洽く義金募集を爲すの遑を有せす依て此際先づ本會役

員諸士の御奮起を仰き國庫の補助と相俟て速に實行に着手致度く就ては甚た御迷惑に存し候得共別紙計畫書御電覽の上可然御配慮御願申度何れ共内本會職員を差出可申候間何分の義直接御申聞被下度候　敬具

昭和六年八月廿三日

同仁會理事（連名）

然ルニ當時澁澤子爵ヲ會長トシ朝野官民ノ發起ニナル中華民國水災同情會ナルモノガ成立シ、全國的ニ義金募集ヲ開始スルコト、ナツタ爲メ同仁會ハ此際募集勸誘ノ重複ヲ避ケルヲ至當ナリト思料シ、直ニ同情會副委員長ニシテ本會理事タル兒玉謙次氏ニ諮リタル處、氏モ亦同感ノ意ヲ洩ラサレタルニヨリ、右勸誘狀ノ發送ヲ中止シ、八月二十七日水災同情會第一回委員會開催ニ當リ、本會ヨリハ入澤副會長並ニ小野理事出席ノ上協議ノ結果、同仁會モ同情會ノ寄附金募集發起人中ニ加ハリ、同情會ノ募集ニ勢援ヲ爲ス代リニ其募集シタル寄附金中カラ本救護事業ニ要スル資金ノ一部ヲ支出セラルベキ旨ノ承諾ヲ得、之ヲ以テ同仁會ハ獨自ノ募集ヲ差控ユルコト、シ、更ニ其旨各役員ニ左ノ通リ通知ヲ發送シタ

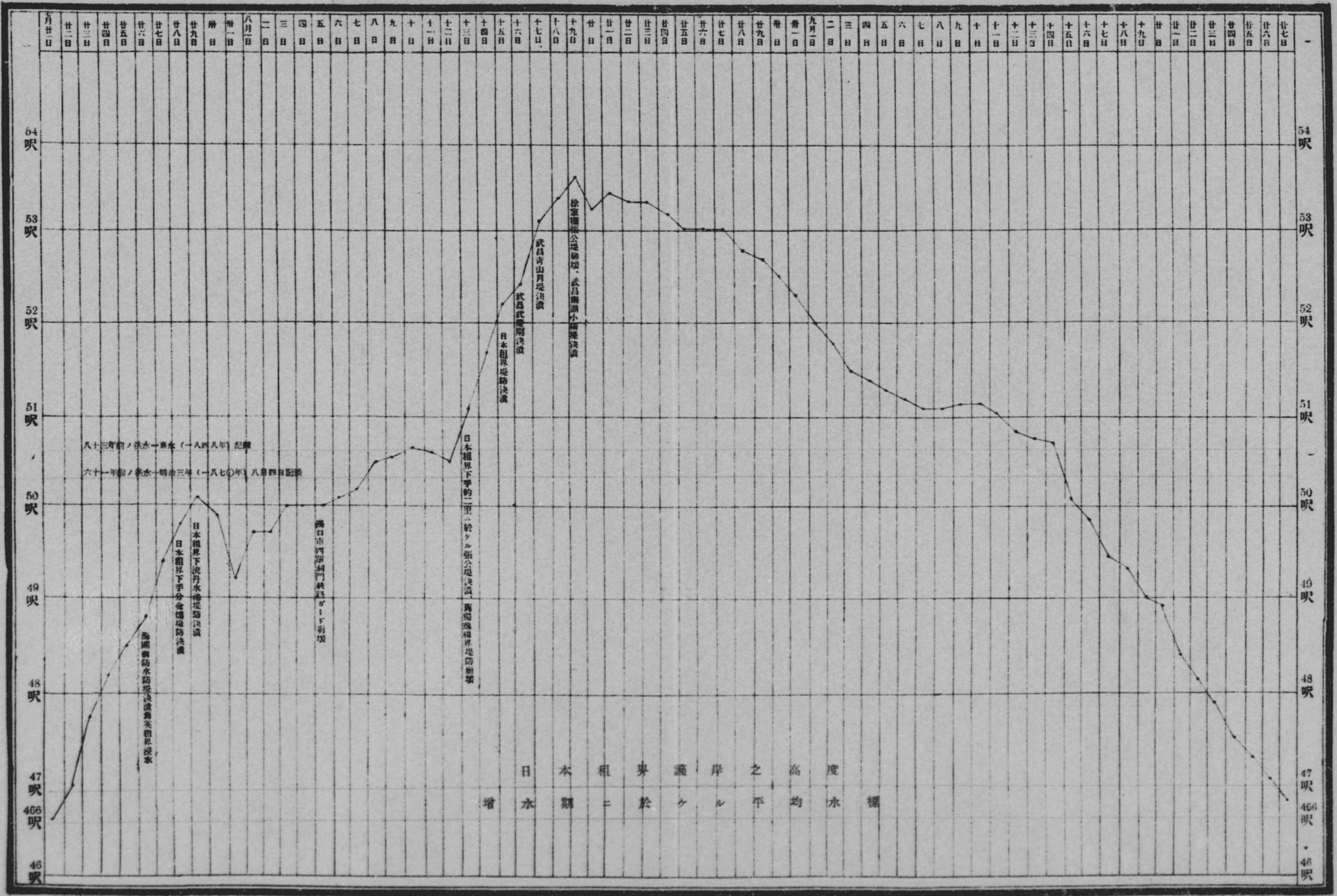
拜啓殘暑の候益々御清適奉賀上候陳者同仁會は支那今次の水災に關し去る廿二日及ひ二十六日の二回に亘り理事會を開催し隣邦罹災者の爲に別紙の通り救護の計畫を議決致し候然るに現地の慘害は刻々に急迫を告け救助一日を緩うする能はさるか故に洽く義金募集を爲すの遑を有せす依て此際先づ本會役員諸士の御奮起を仰き國庫の補助と相俟て速に實行に着手致度存候處時恰も財界有力團體の發起にて中華民國水災同情會なるもの成立し全國的に寄附の募集を開始せらるゝことに相成り同仁會の救護事業に要する經費の幾分も同情會の寄附金中より分贈を受け得らるゝことに同會幹部の諒解を得候に就ては此際同一目的の下に各方面より寄附を御依賴するは御迷惑を重ぬる次第と存し本會としては進て獨自の募集を爲すことを差控え直に計畫の實施に邁進することに致候間此義御含置被下度此段得貴意候　敬具

昭和六年八月廿八日

財團法人　同仁會

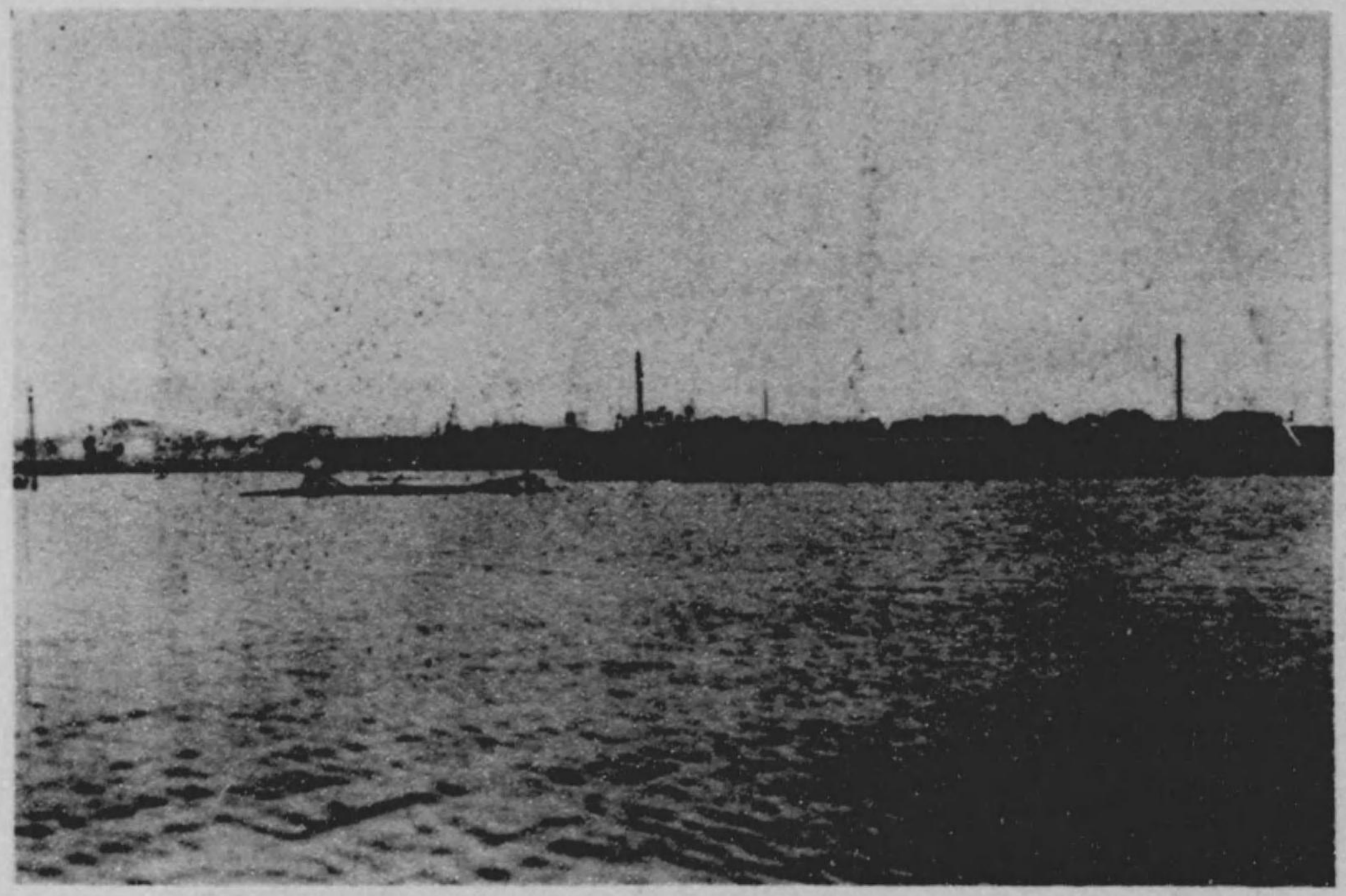
爰ニ於テ同仁會ハ已ニ準備シ居リタル『中華民國水災狀況』ナル小冊子五千部ヲ印刷シテ同情會ニ對スル寄附申込書ト共ニ之ヲ干係各方面ニ發送シテ大ニ勸誘ニ努メタノデアル。

昭和六年 自七月廿一日 至九月廿七日 漢口ニ於ケル揚子江水標



第四章　武漢ニ於ケル被害ノ狀況

上述ノ計畫ニヨツテ本會ガ救護ノ主力ヲ注ガントセル武漢地方ニ於ケル當時ノ水害狀況ヲ見ルニ、日本租界以外ノ支那街及ビ佛國租界等ハ浸水數尺已ニ月餘ニ及ベル狀態デ、或ハ家屋ノ倒壞スルアリ、或ハ糧食ノ缺乏ニ苦シメラル、アリ、人畜ノ死亡流失又算フベカラズ、延テ八月十五日ニ至リ全居留民必死ノ努力ニヨツテ維持シ來レル日本租界ノ防水工事モ亦遂ニ崩壞ノ悲運ニ際會シテ、街路上六尺有餘ノ浸水ヲ見ルニ至ツタ。當時增水ノ狀況ハ別圖總領事館ノ江水標ニ示セル通リデ八十三年前ノ大水記錄ヲ突破スルコト實ニ三呎ノ餘ニ上リ、武漢三鎭ノ浸水狀況ハ次表ニ揭グル各公安局調査ノ如キ狀態デアツタ。

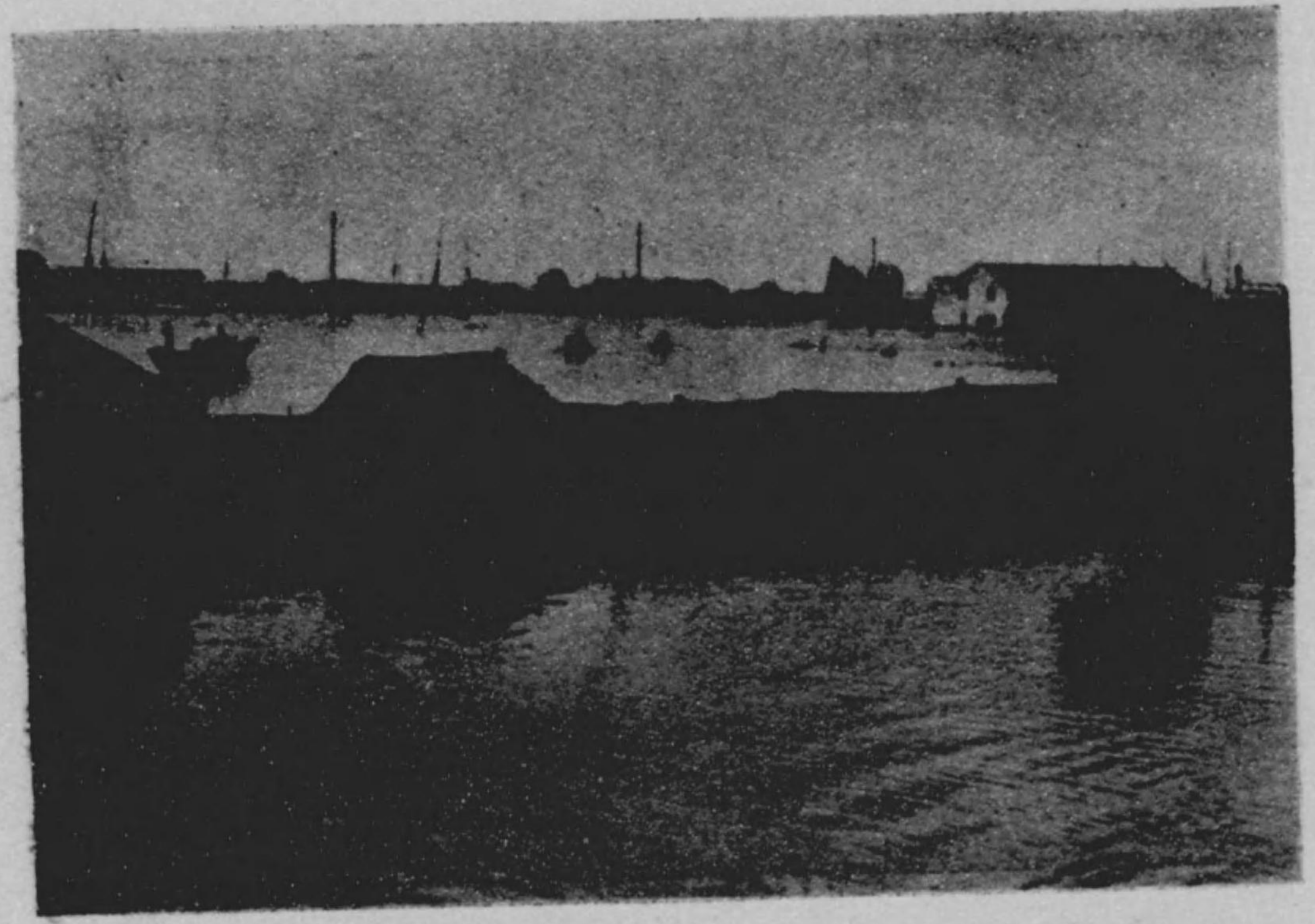


浸水狀況（支那街後面）

八月末日武漢三鎭ニ於ケル浸水戶口調　武漢警備部調

漢口公安局

地方別	公安分局別	戶數	人口 大人	小人	計
漢口	第一署	二、八〇一	九、〇四九	六、〇一〇	一五、〇五九
同	第二署	九、八八七	三二、八二二	一〇、四四七	四三、二六九
同	第三署	三、五五〇	九、六四一	六、一九二	一五、八三三
同	第四署	七、七六六	二〇、一八三	一三、二一九	三三、四〇二
同	第五署	—	—	—	—
同	第六署	九、一三二	三六、六五五	一五、七〇九	五二、三六四
同	第七署	一三、四七三	四七、〇五八	二五、二四二	七二、三〇〇



浸水狀况（鐵道引込線附近）

同　第八署	一五、〇三七	四二、四四四	二九、三一〇	七一、七五四
同　第九署	一二、七二四	五九、七八二	五、七一六	六五、四九八
同　第十署	八九九	九、〇〇八	一、〇八五	一〇、〇九三
同　第十一署	一、〇九四	三、五五九	二、〇九五	五、六五四
同　第十二署	一五、四二九	五六、〇九九	九、七六八	六五、八六七
同　第十三署	六、八九二	二四、六二八	五、八五九	三〇、四八七
同　第十四署	四、三五〇	一四、二九〇	九、六一一	二三、九〇一
同　第十五署	二、九三七	八、六九五	一、六四七	一〇、三四二
同　第十六署	三、六七一	九、四六四	三、九九〇	一三、四五四
同　第十七署	二、一八五	六、九七三	五、二八六	一二、二五九
同　第十八署	一、五四一	七、〇一〇	一、五四一	八、五五一
計	一一三、三六八	三九七、三六〇	一五二、七二七	五五〇、〇八七

武昌分局

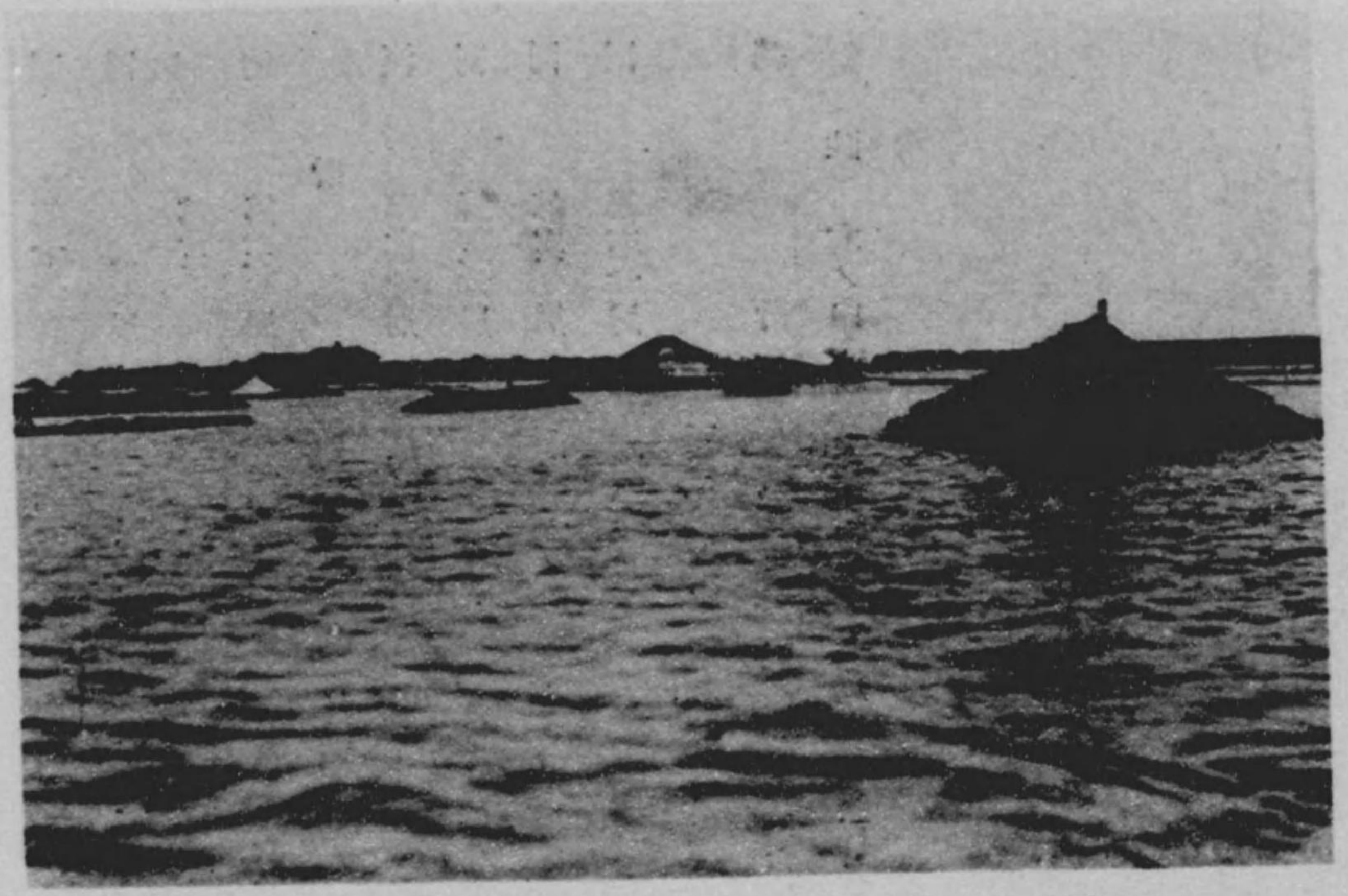
武昌第一分局	五七九	一、七七六	六七七	二、四五三
同　第二分局	四〇七	一、二三三	六三八	一、八七一
同　第三分局	—	—	—	—
同　第四分局	二六四	八一八	四七一	一、二八九
同　第五分局	五、七五五	一六、六一三	一一、四〇五	二八、〇一八
同　第六分局	一、五六一	四、二〇〇	三、四一〇	七、六一〇
同　第七分局	七、一〇八	二三、〇二三	八、八五二	三一、八七五
同　第八分局	四、四六四	一五、四五〇	五、五四三	二〇、九九三
同　第九分局	一、四八七	三、一三五	二、九八四	六、一一九

漢陽分局

同　第十分局	一、二九八	五、一一八	一、六二四	六、七四二
同　第十一分局	三九七	一、三九八	五九五	一、九九三
同　第十二分局	六、一八四	一八、八六六	九、一四九	二八、〇一五
同　第十三分局	一、八五四	五、一三五	二、八七五	八、〇一〇
計	三一、三五八	九六、七六五	四八、二二三	一四四、九八八
漢陽第十四分局	四、〇九六	八、五九七	五、八九九	一四、四九六
同　第十五分局	四、三七六	九、九七七	七、二七六	一七、二五三
同　第十六分局	六、一九七	二〇、八九七	一三、七〇三	三四、六〇〇
同　第十七分局	四、一九二	一二、二三〇	八、五三三	二〇、七六三
同　計	一八、八六一	五一、七〇一	三五 四一一	八七、一一二
總　計	一六三、五八七	五四五、八二六	二三六、三六一	七八二、一八七

（註）右ノ内全然衣食ナキ者十七萬六千五百九十人ナリト云フ。

浸水狀况（漢口醫院前）



浸水狀況（江岸附近）

公設收容所並ニ收容人員

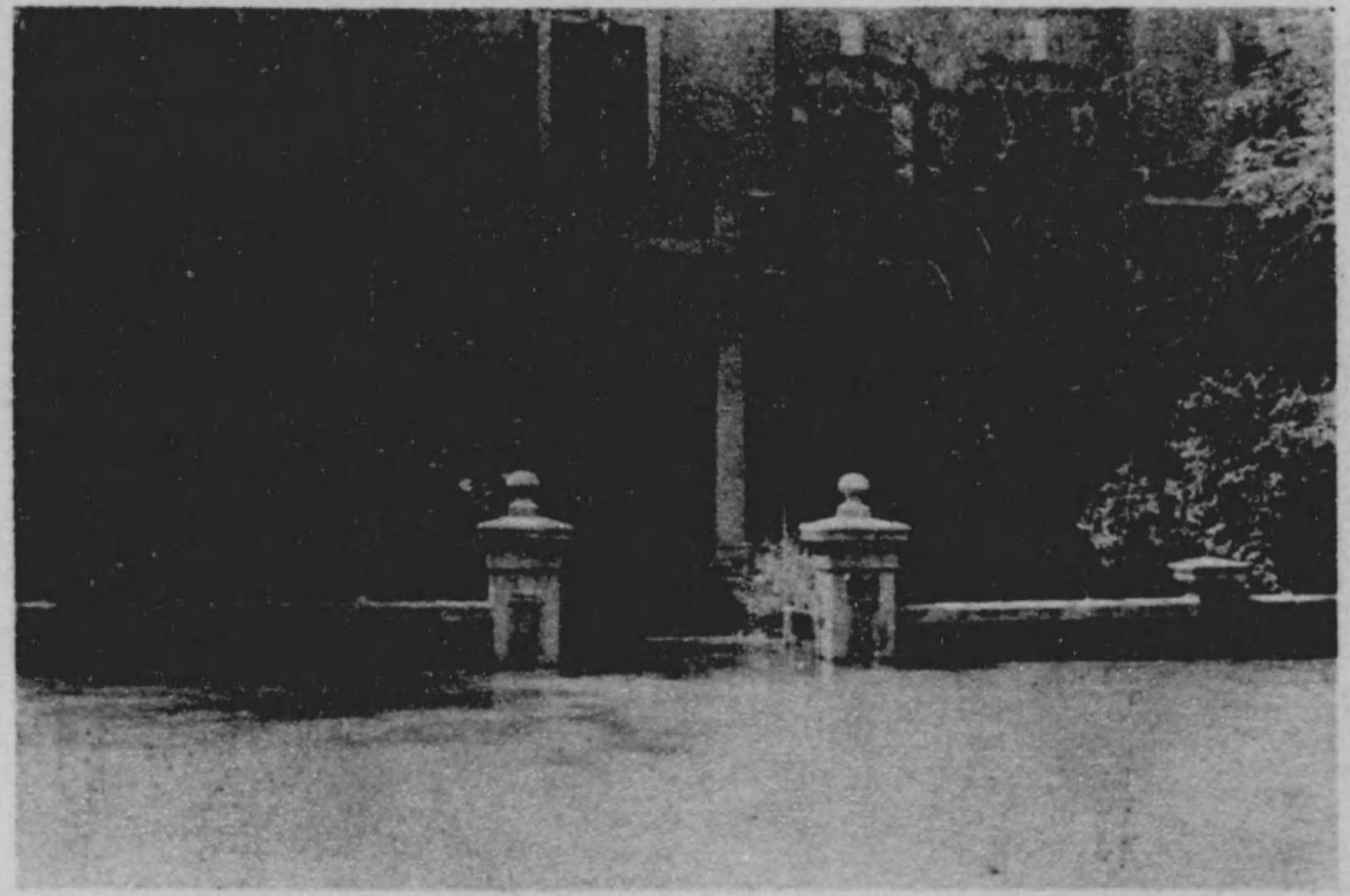
尙又附近一帶カラ武漢ニ向ツテ避難民ノ蝟集シ來ツタモノモ實ニ三十有餘萬ノ多數ニ上ツタト傳ヘラレ、此レ等ノ災民ノ中特ニ救護ヲ要スルモノトシテ中國側當局デ設置シタ公認收容所ニ收容シテ居ツタ人員ハ左ノ如クデ、以テ共ノ一班ヲ察スベキデアル。

收容所	所在地	收容人員
第一收容所	慈善會	二、〇〇〇
第二收容所	新市場	四、〇〇〇
第三收容所	大智門怡和牛皮廠	三、〇〇〇
第四收容所	同　三井洋行	一、〇〇〇
第五收容所	同　寶林洋行	一、〇〇〇
第六收容所	四署萬壽宮	五〇〇
第七收容所	關道街太平會館	三〇〇
第八收容所	民權路長沙會館	三〇〇
第九收容所	德華里天成牛皮棧	一、〇〇〇
第十收容所	羅家巷帝皇宮	三〇〇
第十一收容所	長康里聖若瑟學校	二〇〇
第十二收容所	瀛洲茶樓外數所	三〇〇
第十三收容所	天寶巷	三〇〇
第十四收容所	立興洋行	五〇〇
第十五收容所	日本公園	一、五〇〇
第十六收容所	馬王廟老徵收局	四〇〇
第十七收容所	潮嘉會館	三〇〇
第十八收容所	レースクラブ	五〇〇
第十九收容所	赫山	一六、〇〇〇
第二十收容所	普愛醫院	一、〇〇〇
第廿一收容所	鐵道沿線	五、〇〇〇
第廿二收容所		五〇〇
外ニ臨時收容所トシテ		
第一臨時收容所	三井木行	三〇〇
第二臨時收容所	日清ハルク	七〇〇
第三臨時收容所	江漢中學校	三〇〇
武昌六ヶ所		八、八七〇
漢陽三ヶ所		五、三〇〇
計		五五、三七〇

第五章　各診療班ノ編成及其活動

第一節　漢口醫院診療班

（總務部、第一班、第二班、豫備班）



浸水狀況（院長住宅前）

漢口ハ今次水害ノ最モ激甚ナリシ地方デ、吾ガ漢口醫院デハ七月下旬增水ノ當時カラ居留民ノ防水作業ニ協力スル傍ラ其救護事業ニ任ジツヽアツタガ、八月十三日本部カラ督勵ノ電報ニ接スルト共ニ愈々陣容ヲ整ヘ、舢板二隻ヲ以テ租界內外ノ巡回診療ヲ開始シ、次デ八月二十四日同院武正院長ハ吾ガ同仁會ノ救護方針ヲ中國側ニ徹底セシメ、將來各班活動ノ場合ニ誤解ナカラシムル爲メ、時ノ漢口市長劉文島氏及漢口市立醫院長タル元衞生局長李博仁氏ニ對シ左記ノ書翰ヲ發送シタ。

拜啓　這回長江一帶に起れる水害は千古未曾有の椿事にして在留各國民の罹災は申すに及ばず貴國々民の遭難興げて數ふべからざるものあり凄慘悲愴轉た同情に堪えざる處なり就中貴管下の漢口は被害の最大なるものにして貴下の御心勞深く拜察致候而して我が同仁會の事業は既に平時に於て篤と御承知の如く醫學藥學の普及のため恒に一視同仁今次の如き事變に處しては一層の奮鬪努力を竭すべきものたることを痛感し過日來第一に日本租界の日華人罹災者に向つて巡回診療を試みたるに日本人は勿論中國人の救治を請ふもの夥しきものあり單に日界のみにては其範圍狹少に過ぐるを以て本月廿一日より中國各街に之を延長實施したる處、是亦非常に歡迎せられ到底微力の一般に及ぶ處にあらざることを知れり、雖然本院は出來得る限り罹災救護の意味に

於て力めて廣く治療を續行して以て人道上赤誠を披瀝致度日曜以外毎日當方に於ては必要と認むる方面に任意出勤し施療の方針に有之候間微意の存する處御汲取り被下度此段御通牒申上候也（李博仁氏宛ノ分ニハ『追て何等か御意見あらば御洩らし被下度』ト附記セリ）

右ニ對シ漢口市長何葆華氏（劉文島氏ハ當時民政廳長ニ榮轉セリ）及漢口市立醫院長李博仁氏ヨリ何レモ大約左ノ如キ來信ガアッタ。

中國々民ノ救護ニ御盡力下サルヽニ對シ滿腔ノ敬意ヲ以テ感謝ノ意ヲ表ス云々

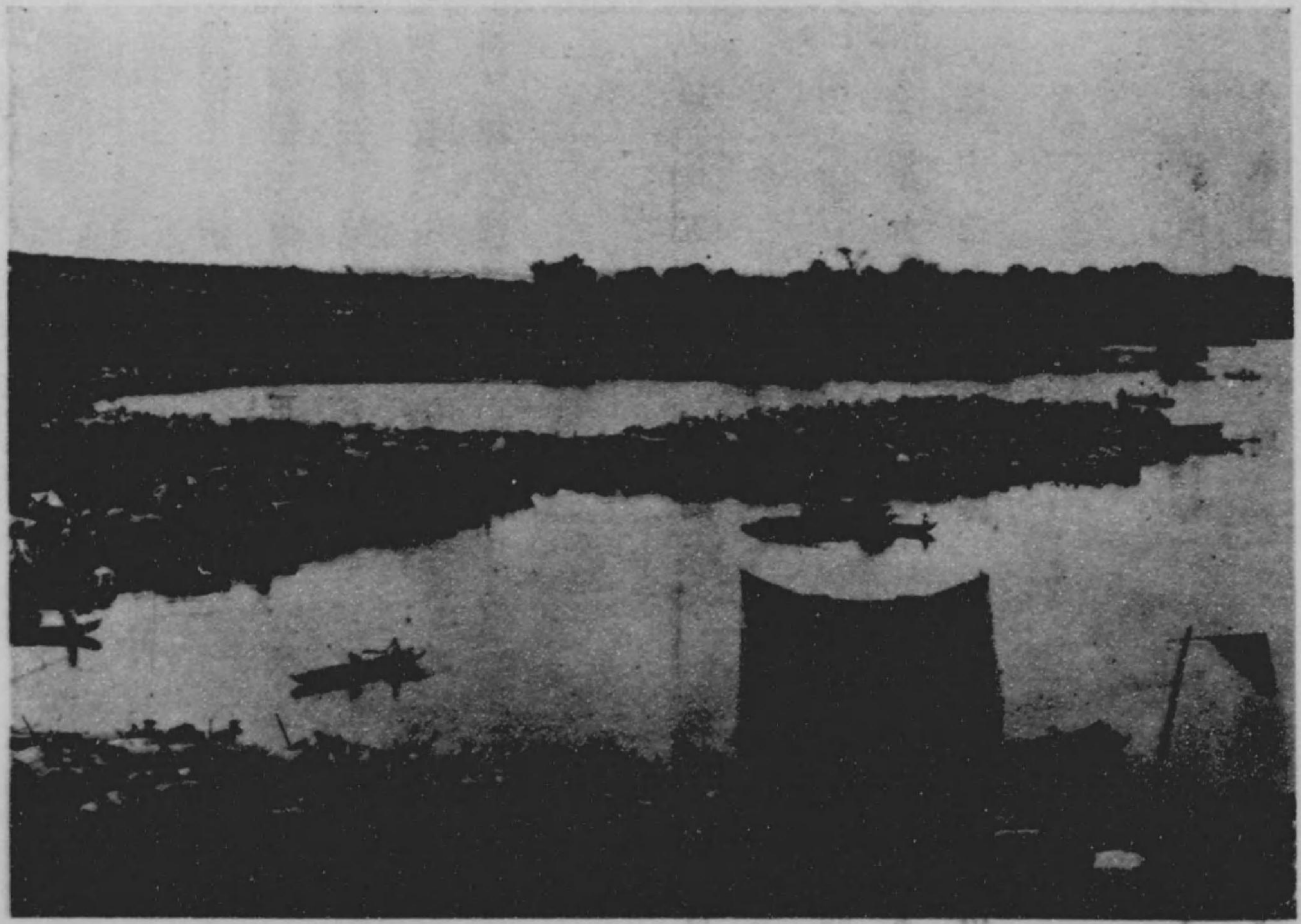
尙院長ハ在漢口坂根總領事ニ對シテモ八月二十四日附ヲ以テ右ノ意志ヲ中國側ニ徹底セシムベク總領事ヲ通ジテ中國官憲ニ然ルベク通告セラルヽ様依賴シタ。

越エテ九月九日漢口市立醫院ニ於テ武漢衛生會議ガ開催セラレタトキ武正院長モ亦之ニ列席シタ。來會者ノ主ナルモノハ南京政府特派武漢衛生組主任金寶善氏ヲ始メトシ南京衛生署顧問ドクトル、ボヂ、、紅十字會代表梅神父醫院長陸德澤氏並ニ衛生當局者數名、漢方醫一名デ、逭次ノ水災ニ就テ衛生方面ノ對策ニ付各自ノ意見ヲ徴シタル結果、結局已ニ決定セル二十二個所ノ罹災者收容所ヲ分擔シテ診療及豫防注射ノ業務ヲ受持ツコトトナリ、武正院長ハ中國側ニ於テ手ノ及バザル地域ハ總テ之

漢口醫院ノ浸水

ヲ引受ケ救護ニ任ズベキコトヲ約シ解散シタ。

右會議終了後武漢衛生組主任金寶善氏ハ漢口醫院ニ對シ、國民政府漢口衛生防疫第五注射所ヲ引受ケ呉ルヽ様希望シテ來タノデ醫院ハ快ク之ヲ引受ケ、醫院前ニ白地ニ黑ク大書シタル看板ヲ揭ゲ、主トシテ豫防注射ヲ實施シタ。而シテ曩ニ衛生會議ニ於テ決定シタル罹災者收容所ノ診療ハ前揭二十二ケ所ノ中第三、第四、第十五、第十八、第二十一ノ五ケ所ニ於ケル約一萬人ノ災民ヲ擔當スルコトヽナリ、後更ニ三井木行、江漢中學校、日清汽船倉庫等ニ於ケル收容災民ヲモ受持區域ニ加ヘタル爲メ、活動範圍ノ擴大ト共ニ九月十二日ヲ以テ愈々各班ノ編成ヲ改メ總務部及ビ第一、第二、豫備班トナシテ擔任ノ部分ヲ定メタノデアル。卽チ第一班ハ主トシテ三井木行、日本人公園、怡和牛皮廠、江漢中學等ノ診療ニ當リ、又日清汽船倉庫等ニモ出勤シ、第二班ハ專ラ鐵道沿線上ノ避難民ノ診療ニ當リ、豫備班ハ第一班ノ擔當區域タル日清汽船倉庫又ハ三井木行ノ災民ヲ診療シ、又他ノ配員ト共ニ各所ノ災民家族等ニ對シ豫防注射ノ援助ヲ爲シタノデアル。



龜山ニ於ケル避難民

武正部長

中島班長

玆ニ總務部及各班員ノ氏名ヲ揭グレバ左ノ通リデアル。

總務部

部長　醫學博士　武正一
藥學士　山脇正福
事務長　室屋萬兵衛
囑託　一色忠慈郎
通譯　沈宿垣

第一診療班

班長　醫學士　中島五六　　看護婦　谷原たけ
醫員　同　古谷新　　同　春木茂
同　愛知醫學士　劉振坤　　同　中根關
調劑員　金澤藥學士　金澤知喜　　同　高山みつゑ
事務員　鈴木德次　　通譯　鮑松山

第二診療班

班長　醫學士　千秋四郎　　看護婦　倉田いちゑ
醫員　同　峰永五郎　　同　高橋とよ

千秋班長

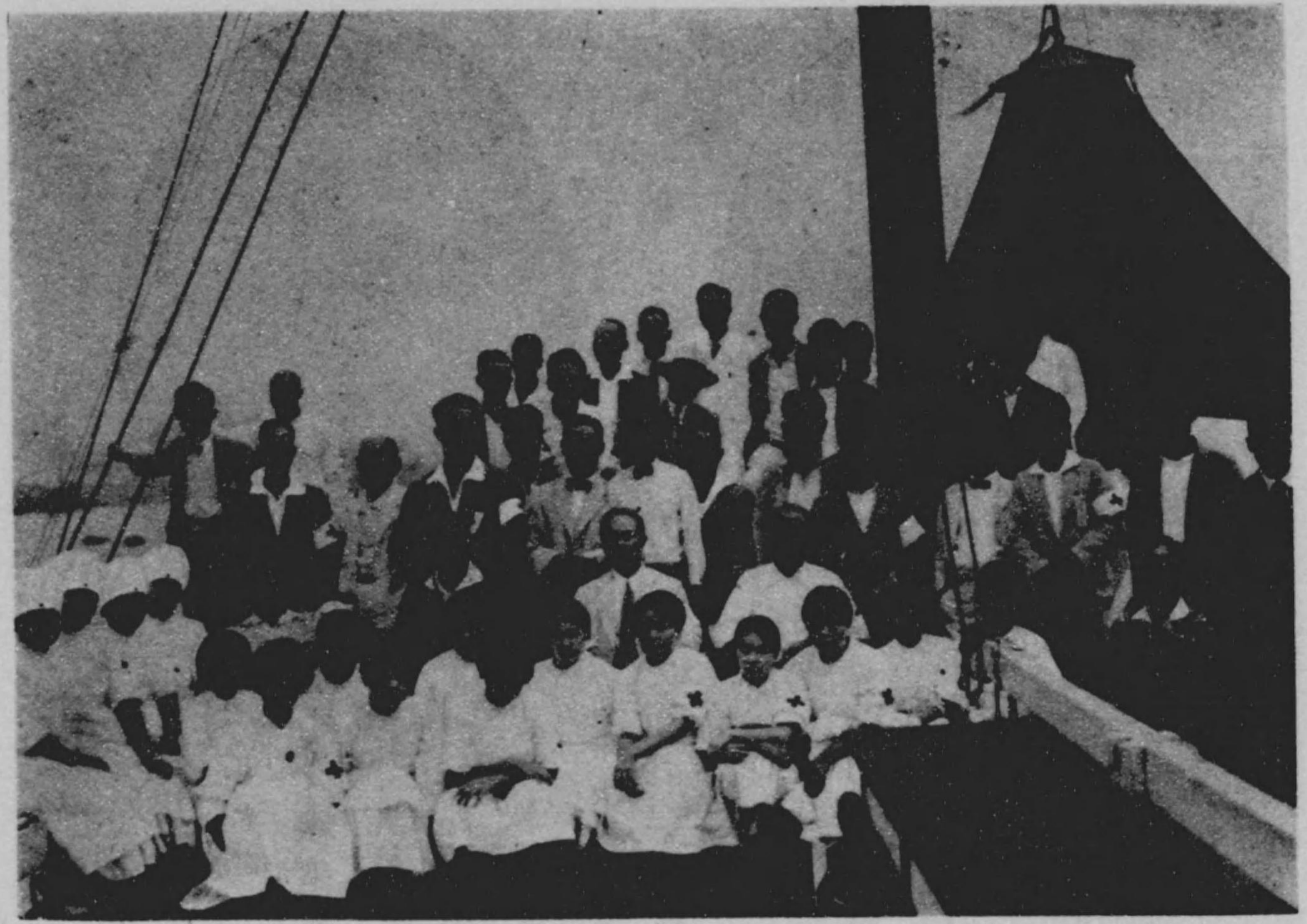
窪田班長

同　南滿醫學士　余傳賢　　同　金木かね
調劑員　藥劑師　伊藤壽美　　同　飯海みき
事務員　高橋正義　　通譯　楊石生

豫備診療班

班長　醫學士　窪田誠五郎　　看護婦　細川うめ
醫員　千葉醫學士　青木英一郎　　同　京增みの
調劑員　長崎藥學士　沈瑾　　同　加藤式部
事務員　築地原吉藏　　通譯　中山喜代造
看護婦　山下さよ

之ヨリ先赫山方面ニ於ケル避難民ノ衛生狀態ハ最モ寒心スベキモノアリトノコトデ武漢衛生組主任金寶善氏カラ特ニ此方面ヘノ出動ヲ懇請シテ來タ爲メ、九月十三日、（日曜）午前八時病院船湘江丸ニ總務部ヲ始メ第一、第二及ビ豫備班ノ全員ヲ搭乘セシメ、時會々青島カラ來着セル第三班ヲ加ヘ、中國側カラハ金寶善氏、ドクトル、ボチチ同乘、總勢五十餘名ニテ同地ニ向ヒ全災民ニ對シテ豫メ用意萬シ居リシ防疫衛生傳單一枚ヲ撒布シテ各班ノ配置ヲ定メ、午後四時ニ至ル迄必死ノ努力ヲ以テ約一千五百餘名ノ診療ヲ了リ、携行シタ醫藥材料全部ヲ消盡スルニ至ツタ同方面ハ前日迄上海紅十字會救護隊ガ出動診療シタ區域デアツテ、一般患者ノ氣受ケガ極メテ不良デアツ



赭山ヘ總出動ノ漢口及青島醫院診療班
（第二列中央ヨリ左ヘ武正院長、金寶善氏、ドクトルボルザ。）

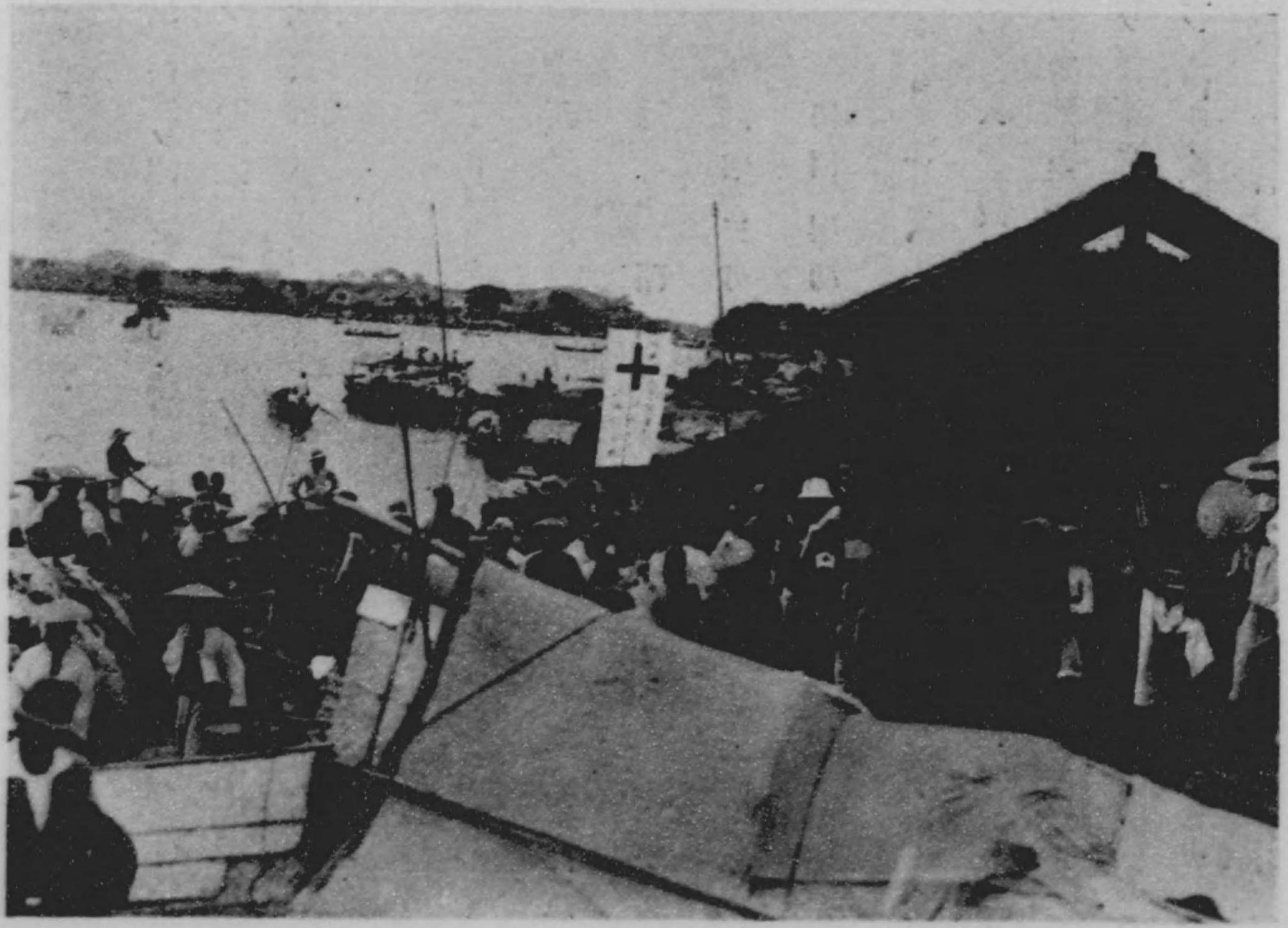
タノデアルガ、一度ビ吾ガ診療班ガ懇切周到ナル診療ト手當テヲ施スヤ非常ナル感激ト信賴トヲ贏チ得タノハ中外ノ均シク認知シタ所デ、大ニ特筆スベキ一頁デアツタト思ハレル。

又各診療班活動ノ當初ハ專ラ診療ニ重キヲ置キ豫防注射ハ診療ノ傍ラ希望者ニ限リ施行シタノデアルカラ、九月十六日迄ハ豫防注射ハ僅ニ數十名ニ過ギナカツタガ、各會社工場等ノ依賴ヲ受クルニ至ツテ九月十七日頃カラ頓ニ增加ヲ來シ十九日ノ如キハ院內外各班ノ注射數一日一千餘件ノ多數ニ上リ、九月中ニ於ケル注射總數ハ實ニ一萬餘件ヲ算スルニ至ツタ。

斯クシテ九月下旬ニ至リ時局關係ガ益々惡化スルニ及ビ中國側ニ於テモ出動班員ノ安全ヲ保證シ得ザル旨ヲ聲明スルニ至ツタノデ、靑島班及ビ中國醫師班ハ終ニ中途歸還ノ止ムナキニ至ツタガ漢口醫院班ハ醫院ガ災害ノ現地ニ存在シ引續キ業務ヲ繼續スベキ關係上、其地避難民ノ窮狀ヲ目睹シナガラ俄ニ之ヲ中止スルニ忍ビズ、十月十六日ヲ以テ一應班ノ編成ヲ解除シタルモ尙當初引受ケタル收容所ノ診療ヲ廢止セズ、引續キ醫員ヲ派出シテ救護診療ヲ繼續セシメタ。而シテ浸水漸ク減退シ避難民モ次第ニ原住所ニ引上ゲ、衞生狀態モ亦大ニ改善サレタノデ、十月末日ヲ以テ一旦之ヲ打切ルコトニシタ。

玆ニ漢口醫院診療班ノ診療ノ日時並ニ其患者數ヲ表示スレバ次ノ通リデアル。

診療期間總日數	計　七十六日
診療班出動回數	計　百四十一回
診療患者數	計三萬七千九百四十人
內譯	
內科	一一、六五一
外科	四、九九二
小兒科	九五五
皮膚科	四、五五五
耳鼻科	九三
眼科	六一二
注射	一五、〇八二
計	三七、九四〇



赭山ニ於ケル第一班ノ診療

第二節　青島醫院診療班（第三班）

漢口醫院ノ診療班ガ活動ヲ開始スルニ伴ヒ本部ニ於テハ之ガ援助ノ爲メ最モ救援ニ都合ヨキ青島醫院カラ第三診療班ヲ派遣セシムルコト、シ八月二十四日其旨ヲ青島醫院長ニ電命セルニ、同院長ハ直ニ之ガ編成ニ着手シ石田醫長ヲ班長トシ左記ノ通リ診療班ヲ編成シタ。

班長	醫長	醫學士　石田大次郎	看護婦	鈴木つや
	醫員	東京醫學士　西村英三	看護婦	高橋たね
	醫員	醫師　陳志藻	看護婦	山本テル
	調劑員	藥劑師　設樂三男	看護婦	大隅美登里
	事務員	田沼與助	傭人	梁玉書

石田班長

同班ハ專ラ栗本院長指揮ノ下ニ藥劑材料其他所用品ノ豫定數量ヲ醫院在庫品ヨリ繰合セ、不足ノ分ハ之ヲ購入シテ携行品諸般ノ準備ヲ調ヘ、九月五日青島出發、六日午後三時上海ニ到着スルヤ乙津副領事外一名中國側カラハ國民政府衛生署技監全國海港檢疫所々長伍連德氏外多數ノ出迎ヲ受ケ豊陽館ニ投宿シタ。而シテ同日午後七時國民政府救濟水災委員會衛生防疫組主任劉瑞恒氏ノ歡迎晩餐會ニ招カレ、翌八日未明襄陽丸ニ搭乘シテ上海ヲ出發シ十一日夜漢口ニ到着、翌十二日傭船湘江丸ニ移乘シ之ヲ根據トシテ診療ニ必要ナル諸般ノ準備ヲ整ヘ、十三日ハ前章ニ記述ルセ通リ漢口醫院總動員ニ參加シテ漢陽赫山ノ診療ニ從事シ、爾後自ラ進ンデ同地ノ診療ヲ擔當シテ一週三回宛同地ニ出勤シ、良好ナル成績ヲ擧ゲタルノミナラズ隨時鐵道沿線、怡和牛皮廠、三井木行其他市內各所ニ出勤シテ漢口醫院班ヲ助ケ診療又ハ注射ニ努力シタガ、九月下旬ニ入リ赫山ノ診療ハ中國側ニ於テ設備ヲ整ヘ進ンデ其衛ニ當ルコトヽナリ、且ツ時局ノ進展ト共ニ民心モ漸ク惡化スルニ至ツタ爲メ、本班ハ第一着ニ引上ケヲ敢行スルコト、ナリ、携行セル醫療藥品ハ漢口醫院班ニ引繼ギノ上十月二日漢口出發上海經由ノ上同八日青島醫院ニ歸着解散スルコト、ナツタ。

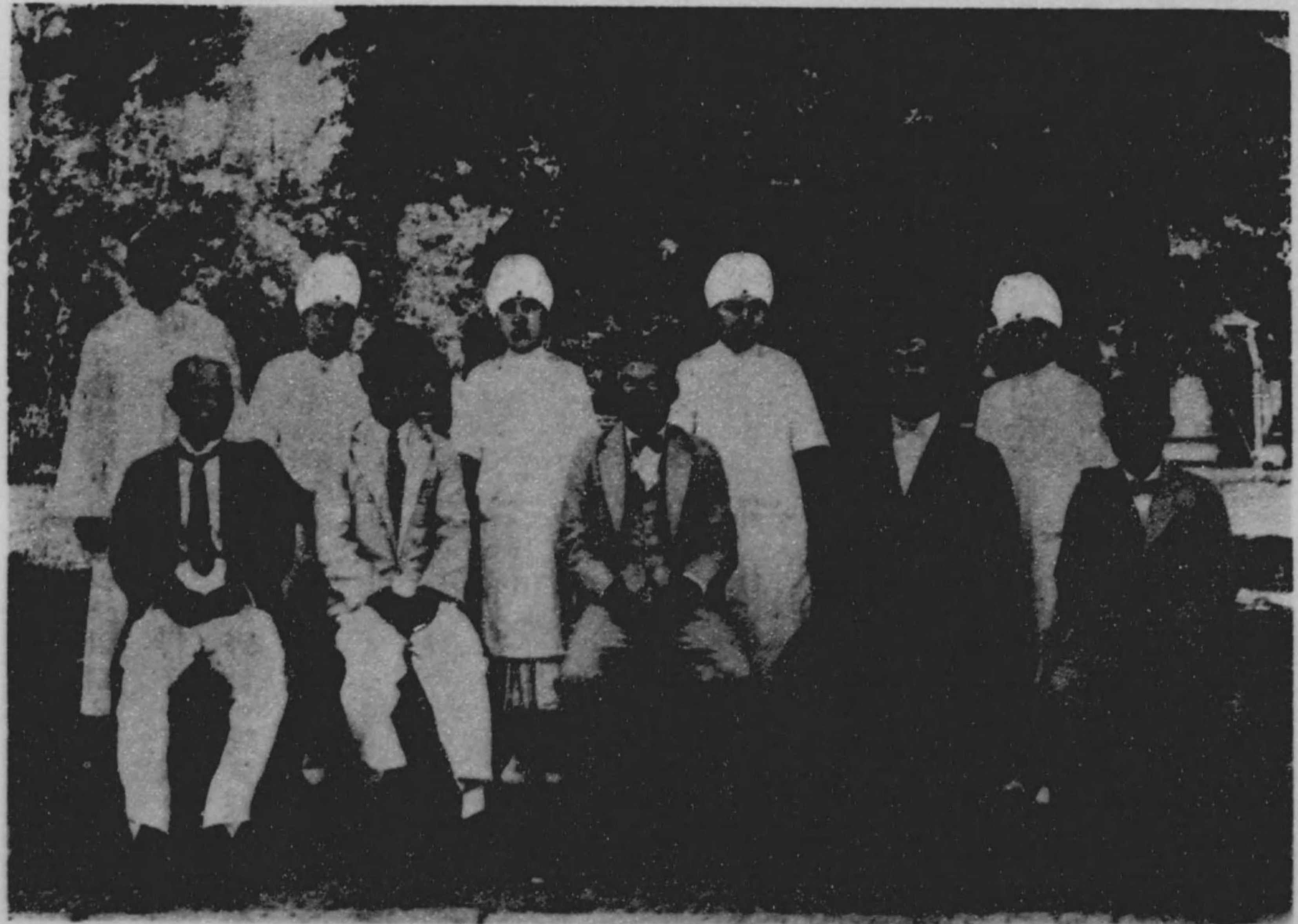
本班診療ノ經過並ニ患者數ハ左ノ如シ。

出發ヨリ歸着迄ノ總日數　計三十三日

診療患者數　計五千四百二十一人

內　譯

內科	二、五八八
外科	六五二
小兒科	六八五
其他	五
注射	一、四九一
計	五、四二一



青島醫院診療班

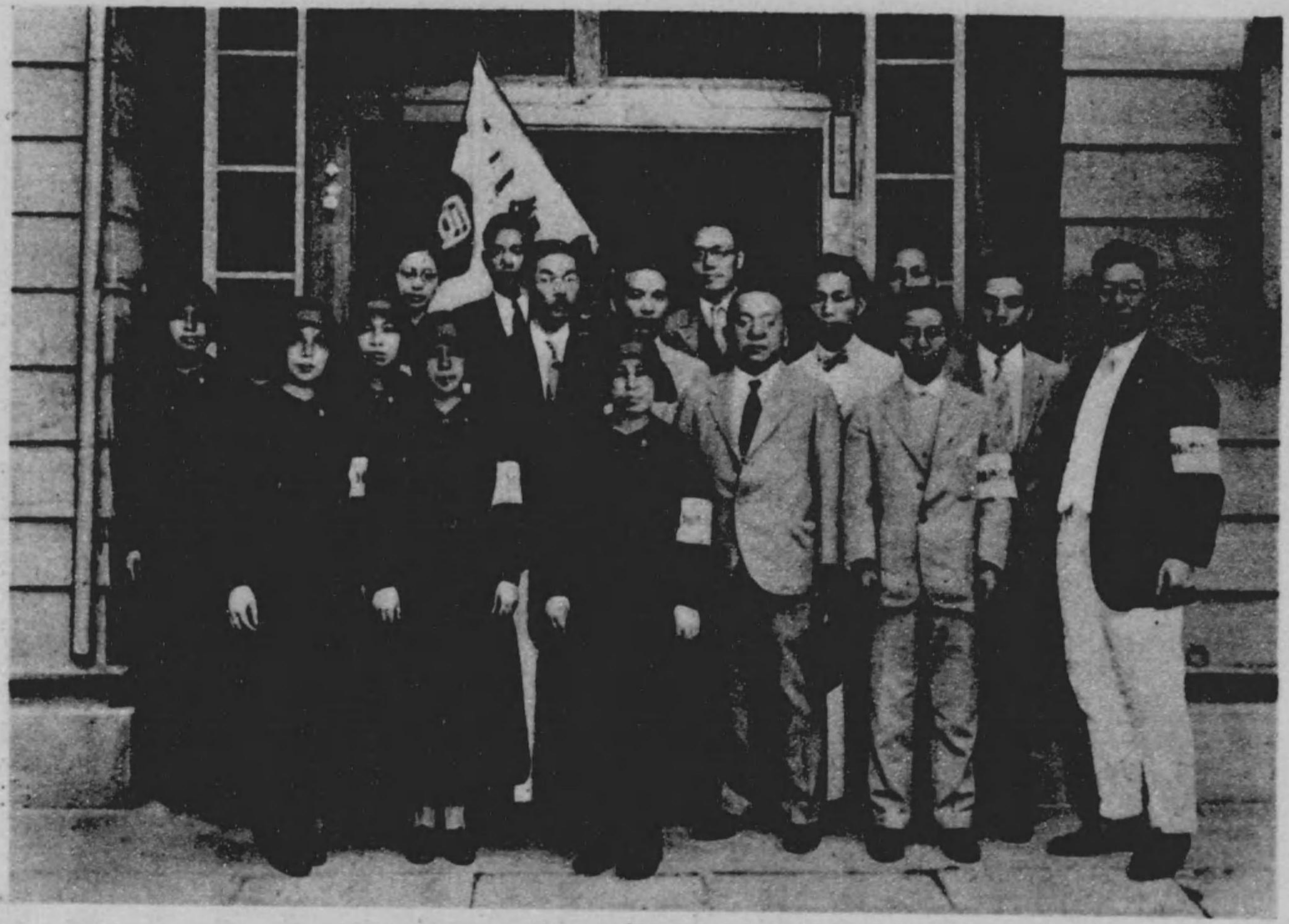
第三節　留日中華醫師團診療班（第四班）

本班ハ今回ノ各診療班中デモ最モ特色ノアツタ班デ本部デハ日本在留ノ中國醫學生醫師中カラ診療班ヲ組織シテ祖國ノ急ニ赴カシムルハ最モ意義アル企テデアルト認メ、豫テ同仁會內ニ常設サレテ居ル中日醫藥學生談話會ニ相談シタ處、會員多數ノ贊成ヲ得タルガ爲メ應募者中カラ東京帝國大學醫學部副手張方慶、李鼎勛並ニ慶應義塾大學醫學部助手張惺庵、楊采芝ノ四氏ヲ選拔シ、醫學博士中ヲ野督一氏ヲ班長トシテ左ノ通リ編成シ、之ヲ第四班トシテ現地ニ急行セシムルコト、シタノデアル。

中野班長

班長　醫長　醫學博士　中野督一　　事務員　田所亮太郎
醫員　醫學士　張方慶　　看護婦　石丸かく
醫員　醫學士　李鼎勛　　看護婦　木村ふじ
醫員　南滿醫學士　張惺庵　　看護婦　上野さと
醫員　女醫　楊采芝　　看護婦　西山富興惠
調劑員　藥劑師　柳町鐵藏　　看護婦　福島しん
同　京都藥學士　高橋德三郎　　雇員　森武雄
事務長　賀來敏夫

而シテ本班ニハ國民政府慰問其他ノ用務ヲ帶ビテ出張セラル、小野理事亦一行ニ加ハリ九月十四日東京ヲ出發シ翌十五日午前十一時神戶出帆ノ長崎丸ニ搭乘十九日午後四時上海ニ到着スルヤ、出迎ヒノ中國側要人多數船中ニ殺到シ來リ口々ニ歡迎ノ辭ヲ述ベラレタ。歡迎者ノ中ニハ全國海港檢疫所々長伍連德氏、救濟水災委員長宋子文氏代理、同衞生防疫組主任劉瑞恒氏代理、同委員朱慶瀾氏、同王一亭氏、同許建屏氏、同趙錫恩氏、同會秘書處長曾鎔浦氏、同會幹事潘曾蔭氏等アリ、又日本側カラハ岡崎領事、米里商工會議所會頭、池田安藏氏、船津辰一郎氏（以上三氏トモ國民政府救濟水災會委員）秋田日本醫師會長、友野民團書記長等出迎ヘラレ應接ニ遑ナキ有樣デアツタ。翌十八日ハ公使官邸デ重光公使ヨリ午餐ノ招宴アリ、又同日午後四時半一行全部國民政府救濟水災委員會連絡組主任實業部長孔祥熙氏邸ノ茶會ニ招待サレ中國側要人多數ノ歡待ヲ受ケタ。倘席上小野理事並ニ中野班長ハ今次ノ計畫一切ニ付諸般ノ交涉並ニ打合セヲ了シタ。



留日中華醫師團診療班

ソコデ十九日未明上海出帆、襄陽丸ノ船室ハ一行十六名ノ獨占スル所トナリ一同和氣藹々、元氣旺盛デ二十三日午前七時漢口ニ到着シタ。是ヨリ先キ一行ガ上海出發後滿洲事變ノ勃發スルアリ、夫レガ爲メ一行ガ漢口ニ到着シタトキハ曩ニ上海ニ於ケル歡迎振リトハ打ツテ替リ中國側カラハ一人ノ歡迎者モナカツタノハ何トナク物足ラヌ感ジヲ覺エタ。一行ハ漢口醫院職員並ニ先着ノ第三班諸氏ノ出迎ヘヲ受ケテ傭船湘江丸ニ乘泊スルコトヽナツタ。

然ルニ滿洲事變ノ影響ハ次第ニ深刻ノ度ヲ加ヘ、既ニ國民政府ハ吾ガ日本國民ノ同情ニナル水災同情會ノ寄贈金品ヲモ拒絕シタルノミナラズ漢口到着後屢々中國側衞生當局ニ會見ヲ申込ミタルモ言ヲ左右ニ托シテ之ヲ回避シ、最後ニ個人的ノ會見ヲ爲シ得タルモ結局國民政府トシテハ公式ニ避難民ノ救濟ヲ依賴シ難ク、又萬一突發事變ガ發生スルモ之ニ對シ責任ヲ負フ能ハザル旨ヲ宣明スルニ至リ、一方日本總領事館デモ民心益々惡化シタル今日強イテ診療班ノ活動ヲ爲サントスルニ於テハ、萬一ノ場合事端ノ發生ヲモ豫期セネバナラズ、殊ニ本班ノ活動豫定地タル武昌進出ノ如キハ到底贊意ヲ表シ難シトノ意向デ、之ヲ要スルニ

第一、時局漸次ニ惡化ノ徵アルコト
第二、中國側官憲ハ積極的ニ何等援助ヲ與ヘズ、又消極的ニモ責任ヲ回避シ居ルコト
第三、豫定診療區域タル武昌又ハ赫山ニハ已ニ中國側ニ於テ自ラ救護施設ヲ開始シ着々進捗シ居ルコト

第三、爾餘ノ診療區域ハ浸水漸減ニ伴ヒ衛生狀態モ次第ニ改善サレ居ルニヨリ是等ハ漢口醫院班ニ於テ十分ニ手廻リ得ルコト等ノ事情ヲ考察シ、折角準備ニ於テ二等病院ノ設備ヲ整ヘ、醫療機械、藥品材料九十餘個ノ大行李ヲ携行シ陣容堂々ト乘込ミタルニモ拘ハラズ所期ノ目的ヲ貫徹シ得ズ中途引揚ゲノ止ムヲ得ザルコト、ナツタ次第デアル。

而シテ此間在留十餘日班員一同髀肉ノ歎ニ堪エザルモノガアリ『徒ラニ腕ヲ扼シテ形勢ヲ觀望スベキニアラズ、此際先ヅ漢口醫院班ノ擔任區域ニ出動シテ援助的診療ニ從事スベキナリ』ト云フコトデ九月二十九日ニハ日本公園ニ同三十日ニハ鐵道沿線ニ出動シテ、多數ノ災民患者ニ對シ懇切叮嚀ニ診療ヲ施スコトヲ得タノハセメテモノ慰サメト云ハネバナラヌ。

斯クシテ本班ハ其携行セル多量ノ藥品材料モ遂ニ活用ノ機會ナク其儘之ヲ漢口醫院班ニ引繼ギタル上怨ヲ恨シテ、十月四日漢口出發上海ヲ經由シテ同十二日東京ニ歸着シ即日解散スルコト、ナツタ。

附記　本班醫員中張方慶、李鼎勛二氏ハ金寶善氏ノ希望ニヨリ殘留シテ中國側醫院デ診療ニ從事スルコトニナツタガ、兩醫員ハ其後中國側ノ委囑ニヨツテ武昌方面ニ出動スルコト、ナリ、差當リ武昌ニ新設セラルベキ假病院ノ敷地選定並ニ建築設計ヲ擔當スルコトニナリ、其間隙ヲ見テハ藥品携帶ノ上洪山其他ノ避難民ヲ診療シタガ、十月下旬ニ至ツテ北平協和醫院ノ診療班ガ來着シテ該地方面ヲ擔當スルコトニナツタノデ、之ヲ同班ニ讓リ十月二十三日漢口出發同三十一日歸京シタ。

以上本班ノ行動經過並ニ診療患者數ヲ示セバ次ノ通リデアル。

出發ヨリ歸着迄ノ總日數　計　二十九日
診療患者數　計　三百四十六人

內譯

內科	一六一
外科	四八
皮膚科	一〇八
耳鼻科	二
眼科	一二
注射	一五
計	三四六

茲ニ以上各班ガ診療シタル總患者數ノ合計並ニ病類別ヲ示セバ左ノ如クデアル。

漢口醫院診療班總患者數	三七、九四〇人
青島醫院診療班　同	五、四二一人
留日中華醫師團班　同	三四六人
合計	四三、七〇七人

各班診療患者病類別表

	男	女	計
コレラ	五	七	一二
赤痢	八一七	二四〇	一、〇五七
腸チブス		三	三
結核疾患	八六〇	一二六	九八六
マラリア	一、二七九	四二九	一、七〇八
アメーバ赤痢	六四二	一八九	八三一
阿片中毒	五〇	二六	七六
全身疾患	七九一	一四一	九三二
神經疾患	九七二	四四三	一、四一五
呼吸器疾患	二、〇六一	七七五	二、八三六
血行器疾患	六一	五一	一一二
榮養器疾患	三、九四一	一、五八九	五、五三〇
泌尿生殖器疾患	三〇二	一六四	四六六
產科諸病		二二〇	二二〇
性病	二九		二九
眼疾患	三三二	二九二	六二四
耳鼻疾患	五四	四〇	九四
皮膚疾患	二、八六一	一、九九九	四、八六〇
限局性浮腫	六	二	八
運動器疾患	八七	五一	一三八
外傷及不慮	三、九七一	一、一八六	五、一五七
其他疾患	一五	一〇	二五
計	一九、一三六	七、九八三	二七、一一九
豫防注射	一一、六七九	四、九〇九	一六、五八八
合計	三〇、八一五	一二、八九二	四三、七〇七

尙當時武漢ノ排日狀勢ニ關スル報告書ヲ玆ニ附記シテ參考ニ供スルコトニスル。

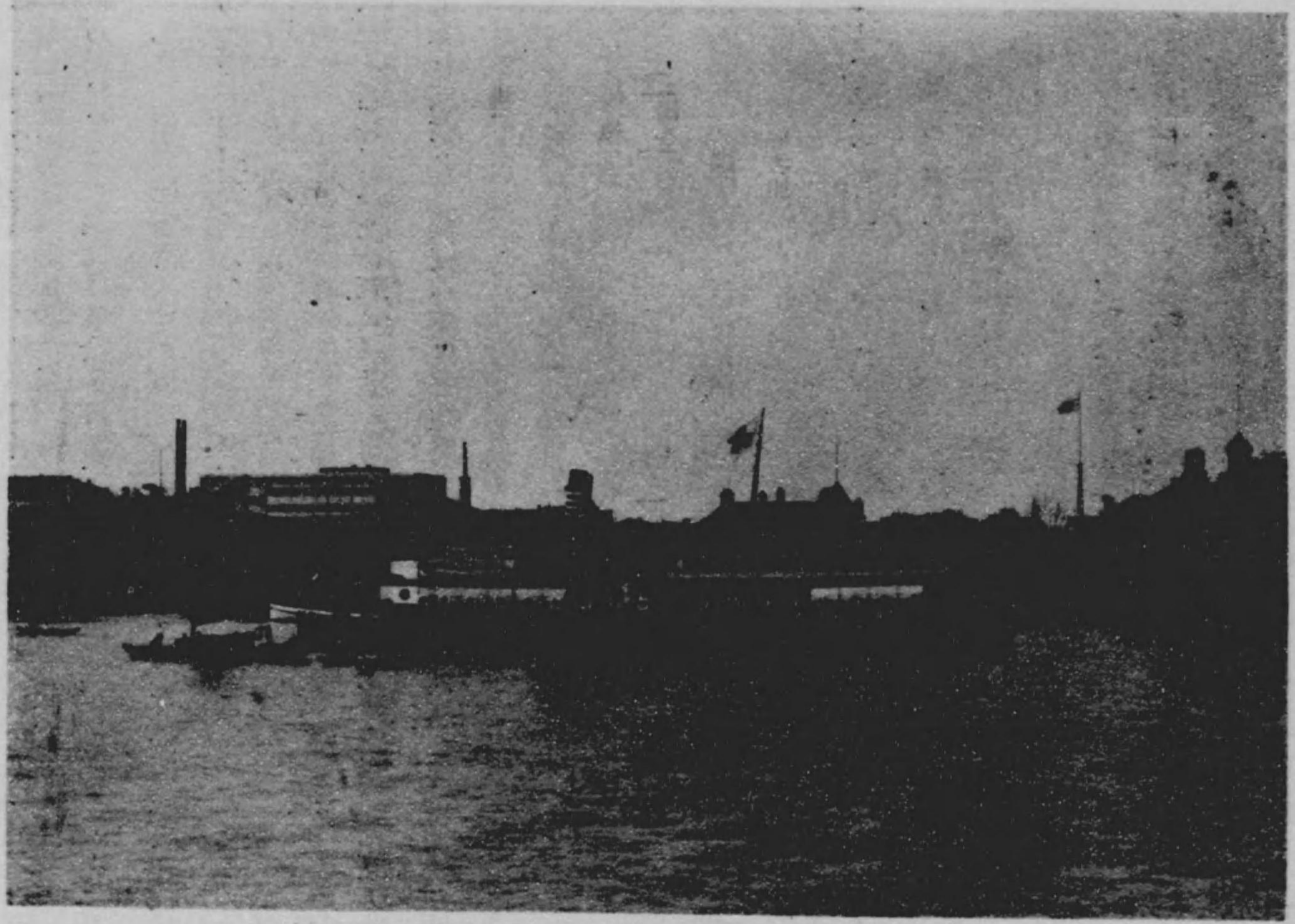
時局ノ救護ニ及ホス影響　（漢口醫院）

武漢ノ排日　九月十九日奉天事變勃發スルヤ其ノ反響トシテ上海及南京方面ニ於テハ排日ノ氣勢擧リ武漢ニ在リテハ省市黨部ノ策動ニ依リ二十一日ヨリ二十六日マデ市民ニ對シテ半旗ヲ揭ゲ喪章ヲ掛クヘク通達セシモ水災後疲勞困憊セル市民ハ一般ニ無關心ナルモノノ如カリシガ二十三日ニ至リ武漢軍官學生及武裝軍隊約一千名ガ特三區方面ヨリ支那街ニ向テ示威行列ヲ爲シ排日宣傳ビラヲ撒布シ民衆ニ敵愾心ヲ煽リ武漢各支那紙ハ水災記事ヲ一變シテ排日記事ヲ以テ全面ヲ埋メ其ノ甚ダシキハ二十四日ノ奮鬪報ノ社論ニハ「日本ト城ヲ背ニシテ一戰セン」ト劇論シ同日ノ新民報ニハ『倭奴ハ自ラ矛盾セリ日本ノ中日親善ノ假面ハ剝ガレタリ』等暴言ヲ吐キ同日ノ公論日報ハ『人民ガ政府ヲ援助スルハ此ノ時ニ在リ區々タル三島何ノ畏』ト大見得ヲ張リツツアリ併シナガラ武漢警備司令部ノ二十五日公布シタル排日取締令ハ「國民ノ愛國運動ハ須ラク穩健ノ態度ヲ採リ以テ外交ニ利セヨ徒ラニ義憤ヲ起シテ利益ヲ顧ミス粗暴ノ行動ヲ敢テシ日人ニ口實ヲ與ヘテハナラヌ」ト戒メアリ葉參謀長亦「軍人ハ國家ノ命令アレバ生命ハ惜ムベキ處ニアラザルモ民衆ノ愛國運動ハ嚴肅ナル規律ヲ要スル徒ラニ小人ノ行動ヲナシテ外人ニ藉口ノ餘地ヲ與エテハナラヌ」ト云フガ如キ排日ハナスベキモ直接行動ニ出テ事端ヲ擾釀セザラシメント腐心シアルモノノ如シ而シテ漢口ノ排日團體ハ省市黨部、總司令部第二剿匪宣傳處ノ外新ニ漢口救亡會組織サレ武昌ハ市會ニテ日貨不買取極ヲ申合セタルカ昨今具體的ニ現ハレタル排日ノ影響トシテハ既濟水電公司ガ三菱トノ撫順炭取引拒絕四明銀行ガ日本ノ各銀行ト取引ヲ拒絕セルト江漢中學ノ支那人教職員陳瀚塵等十數名退職セリトノ情報アル外未ダ何等邦人ニ對シテ危害或ハ妨害ヲ加ヘタル事實アルヲ聞カズ。

長江各地ノ排日　漢口以外ノ鄕州地方ノ邦人婦女子七名ハ二十四日漢口ニ避難シ來リ宜昌邦人亦漢口避難說アルモ孤立無援ノ地ナルヲ以テ萬一ヲ考慮シテ豫メ避難シタルモノナリ上海ハ市黨部ノ策動ニ依リ放縱無忌ノ排日運動ニ狂奔シツツアリ經濟絕交運動ヲ再燃シアルモ目下ノ處計畫ノミニテ實際運動ヲ起シタルモノニアラズ。

唯憂フベキハ首都南京ニ於ケル黨部ノ策動ニ依リ立法院顧問副島博士外二名ノ解傭軍事教官ノ引揚等アル外一般居留民ハ危害ヲ恐レテ先ヅ婦女子ヲ上海ニ引揚ゲ男子亦日淸ハルクニ難ヲ避ケ日本記者ハ通信不買同盟ニ會ヒ形勢如何ニ依ツテハ引揚ゲントシアルガ國民政府ノ膝元ニ斯醜體ヲ演ジ居ルハ蔣主席ノ勢力及バザルガ爲メニハアラズヤト推想セラル。

本院救護事業ニ及ホセル影響　救護班編成各班其ノ部署ニ着キテ以來連日奮鬪努力シ豫期ノ成績ヲ擧ゲツ、アリシガ奉天事變ノ勃發ニ依リ其ノ影響長江一帶ニ及ビ武漢地方ノ民衆モ惡化スルニアラズヤトノ杞憂ヲ抱クニ至リタル折柄二十三日ノ軍官學生ノ示威行列ニ刺戟サレ租界封鎖經濟絕交等ノ風潮高マリタルヲ以テ青島班ノ是迄診療區域タリシ蒜山ハ遠隔ノ地ニシテ支那地方官憲ノ取締及バザル地域ナルヲ以テ之ヲ見合セ其ノ成行ヲ觀望シツツアリ。



傭船湘江丸

該班ハ着任匆々活動ヲ開始シ炎暑ト蒸臭ノ中ニ連續奮鬪セシヲ以テ休養旁々形勢推移ヲ待チツ、アルカ本院所屬第一、第二、豫備班ハ排日風潮アルニ拘ラズ各收容所ニ診療ヲ續行シツ、アリ、第四班及全救護班今後ノ方針ニ關シテハ小野理事ノ指示ヲ仰ギ決定ノ上追報セント欲ス。

第四節　傭船湘江丸

各診療班ガ浸水セル地方デ縱橫ニ活躍スル爲メニハドウシテモ船舶ヲ傭入ル、必要ガアルト云フ理事會ノ決議ニ基キ、本部ニ於テハ八月下旬日清汽船會社ニ協議ノ結果同社所有ノ漢口淀泊中ノ客船湘江丸（八八三噸）ヲ九月十日カラ向フ二ケ月間ノ約定デ借入レ、漢口醫院ノ手ニヨツテ之ニ艤裝ヲ施シ檣頭高ク大赤十字旗ヲ揭揚シ、舷側ニハ赤字ヲ以テ同仁會診療施藥班ナル大字ヲ表ハシ、日本總領事館前ノ江面ニ假泊セシメテ大ニ內外人士ノ注目ヲ惹キ、一面又之ニ附屬セシムルニ輕快ナルモーボート一隻並ニ舢板五隻ヲ以テスルコトニシ、ボート及舢板ノ借入レハ上海總領事館ニ一任シタル處、舢板丈ケハ都合ニヨリ購入スルコト、ナリ借入レノモーターボートト共ニ九月十日漢口ニ送附シテ湘江丸ニ繫留セシメタ。

而シテ九月十二日ニ第三班ガ青島カラ漢口ニ到着スルヤ直ニ本船ニ移乘シ、又二十三日ニハ第四班モ東京カラ到着シテ同船ニ乘込ミタル爲メ船室稍狹隘ヲ感ジ、二班全員ノ根據地トシテハ適當ナラズト認メ、第三

班ハ當時漸ク整頓シ來ツタ旅館福田館ニ移宿セシムルコトヽシタ。カクテ湘江丸ニハ第四班員ノミ引續キ船内ニ起臥シ、同班引上ゲノ前日卽チ十月三日ヲ以テ契約ヲ解除シ日清汽船會社ニ返還シタノデアル。

此クノ如ク同船借入レノ目的ハ主トシテ第三及ビ第四班員ノ根據ニ充ツルノ外必要ニ應ジ上流ハ長沙又ハ沙市方面下流ハ武穴九江方面ニモ出動シ得ル豫定デアツタガ時局ノ影響ハカヽル活動ヲ許サナカツタ爲メ終始日本租界江岸ニ繋留シテ居ツタ譯デ、只九月十三日漢口醫院總動員ノ際特ニ一行ヲ載セテ漢水河口ニ遡江シタルノミナリシハ頗ル物足ラヌ感ガナイデモナイ。只モーターボートハ第三班ノ赫山ヘ出動ノ度毎ニ、又水陸ノ連絡用其他各班ノ活動ニ對シ多大ナル便宜ヲ供與シ五隻ノ舢板ト共ニ極メテ有用ノ利器デアツタ。カクテモーターボートハ十月十四日上海ニ返送シ、舢板ハ漢口醫院用トシテ引繼ヲ了スルコトヽシタ。

第六章　藥品材料ノ寄贈

第一節　赤痢豫防内服藥

同仁會ハ八月二十二日理事會決議ニ先ダチ二十一日附ニテ入澤副會長ノ名ヲ以テ國民政府衞生署醫政司長嚴智鍾氏ニ對シ差當リ必要ナルベキ藥品材料類ニ對スル先方ノ意向ヲ徵スル爲メ次ノ書簡ヲ發送シタ。

總發第四八七號

昭和六年八月廿一日

同仁會副會長　入澤達吉

國民政府衞生署醫政司長　嚴智鍾殿

謹啓酷暑ノ砌ニ御座候處愈々御清勝奉賀候

陳者本年貴國各地ニ於ケル水災ハ誠ニ未曾有ノ慘害ト言フベク一報ヲ得ル每ニ驚愕ノ度ヲ加ヘ居ル次第ニテ之ニ對スル貴方ノ御辛勞モ嘸カシト遙察罷在候就テハ本會ニ於テモ職責上今後ノ防疫事業ニ對シ應分ノ務メヲ果シ度已ニ救護班編成致シ藥品材料ノ蒐集等ニ着手致居候ガ尙貴署御計畫上必要ノ材料藥品等モ有之候ハヽ本會ニ於テ出來得ル限リノ御援助ハ惜マザル心算ニ有之候間右ニ對スル御内意御洩シ被下候ヘバ幸甚ニ奉存候

右不取敢御見舞旁々貴意御伺ヒ迄如斯御座候　敬具

右ニ對シ同月末日ニ至リ國民政府救濟水災會衞生防疫組主任劉瑞恒氏カラ同會日本側委員大村得太郎氏ヲ通ジテ外務省宛、赤痢豫防内服藥五萬人分入用ノ旨左記ノ通リ來電ガアツタ。

重光公使來電八月下旬着

南京救濟委員會衞生組劉主任ヨリ三井大村宛

「同仁會入澤博士ヨリ醫藥品提供ノ申出アリタルニ依リ必要品目ヲ先ニ通知シ置キタル處緊急必要ヲ感シ居レル Polyvalent oral dysentery Vaccine (經口赤痢ワクチン) 五萬人分直ニ送附願得ルヤ同仁會ニ問合セアリ度ク代金必要ナラバ救濟委員會ヨリ支拂フヘシ」ト申越シタルニ付同仁會又ハ赤十字社ヘ右御轉傳相成至急送付方御取計相成度ク結果御返電願ヒ度シ。

尙又八月三十一日附囊ニ當方ヨリ照會狀ヲ發送シ置キタル衞生署醫政司長嚴智鍾氏ヨリモ左ノ通リ復函ガアツタ。

敬復者久違
雅教渴念殊深昨奉八月廿一日總發第四八七號
華翰以敝國各地水災奇重蒙賜慰問且悉
貴會對於防疫救護工作不惜盡力援助拜誦之餘曷勝感佩茲將此間工作近況略陳如左

一　現在各　災區衞生防疫工作已由國民政府救濟水災委員會衞生防疫組負責擔任先由武昌漢口着手開始
二　劉署長瑞恒氏被任爲該組主任一切計劃皆在上海總辦事處集中辦理
三　上海三井之大村得太郞氏亦爲救濟水災委員會委員之一專擔任與日本方面連絡事務
四　宋子文部長劉署長已各有函致大村氏接洽在日本募捐藥品材料及借用醫師等事茲覓得原函稿及藥品單各一紙特奉上以資參考
五　惟目前所最急需而最難得者却爲多價赤痢經口預防劑（經口ワクチン）不知在東京能否多量製造
貴會如能協助物色此種經口ワクチン不勝感激因委員會且願出資實價購買也
六　關於人員一層治療方面之醫師如救護班等因須與人民直接接觸故在此間物色用本國人較爲經濟至於作業室内之工作人民如微生物學寄生蟲學專家若能惠臨協
助則甚爲歡迎也專此

拜覆順頌
台祺此致
同仁會副會長　入澤博士
内政部衛生署　嚴智鍾
八月卅一日

同仁會ハ右電報並ニ覆函ニ基キ本品ニ關スル取調ヲ爲シタル所、本劑ハ日本ニ於テモ未ダ民間ノ製造ヲ許可シ居ラズ、僅ニ警視廳ニ於テ試驗的ニ製造シ居ルノミナルヲ以テ、之ガ製造方ヲ同廳ニ申請シタルニ、水災救護ノ爲メ中華民國ニ寄贈セントスルモノナラバ製造スルモ差支ナシトノ諒解ヲ得タノデ、九月一日右材料原菌ノ製造ヲ傳染病研究所ト北里研究所ノ兩所ニ依賴シテ鋭意之ガ製造ヲ開始シ、仝十三日ニ至ツテ一萬人分丈ケノ製造ヲ終ツタノデ、翌十四日東京出發國民政府慰問ノ爲メ出張シタ小野理事ガ之ヲ携行シテ九月十七日上海デ前記劉瑞恒氏ニ交付シタ。然ルニ其後時局ノ關係カラ殘部四萬人分（內二萬人分ハ日本醫師會ノ寄贈）ノ製造モ完了シタルニ拘ハラズ遂ニ寄贈不能ニ陷ツタノデ現品ハ其儘同仁會本部デ保管中デアル。

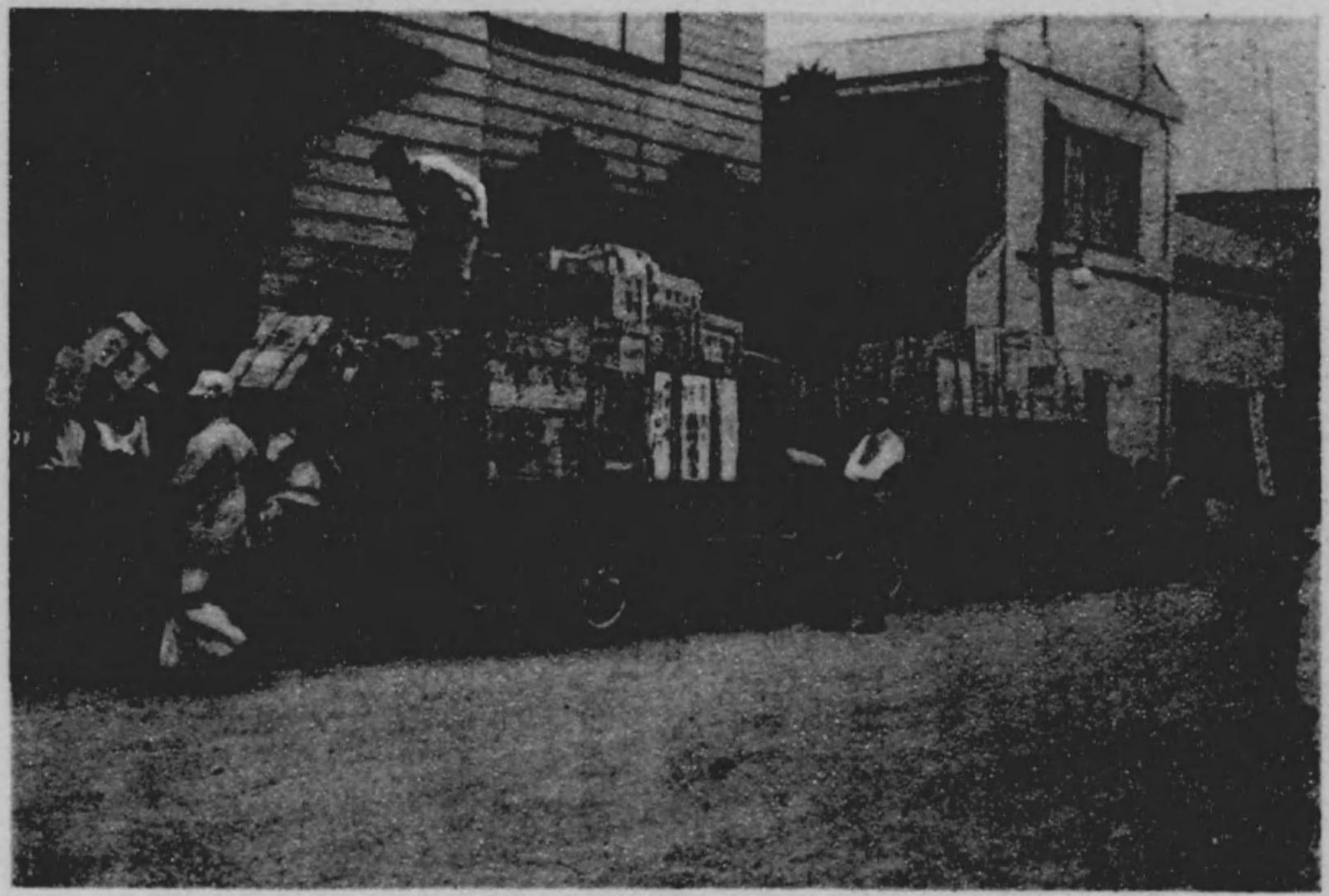
第二節　調辦ノ藥品

國民政府救濟水災會衛生防疫組主任劉瑞恒氏カラハ前項赤痢ワクチン以外ニ、尙日本赤十字社ニ對シテモ附記電文ノ通リ多量ノ藥品材料寄贈方ヲ依賴シテ來タガ、同社デハ現金若干ヲ寄附シテ藥品ノ寄贈ヲ爲サヾルコトニ決定シタ爲メ、右注文ノ藥品ハ水災同情會ニ於テ大部分ヲ引受ケ寄贈スルコト、ナリ、之ガ調辦方ヲ同仁會ニ委囑シテ來タノデ、本會デハ之ヲ快諾シ、硫酸マグネシウム一千キログラム外七點計約金一萬五千圓ニ相當スル藥品ヲ調辦シ、九月十日同情會ノ慰問船天城丸ニ托送スルコト、シタ。然ルニ天城丸積載ノ寄贈品ハ中國側ノ引取リ拒絕ニ會ヒタル爲メ、本藥品モ自然同樣ノ運命ニ際會シテ空シク日本ニ送還セラレ、現品ハ總テ同情會ニ引渡シテ其處理ニ一任スルコト、ナツタ。

附記　藥品類寄贈ニ關スル來電

重光公使來電八月下旬着

日本赤十字社ヨリ曩ニ救護用品照會アリタル件ニ關シ中國救濟委員會衛生組主任劉氏ヨリ三井大村ヲ通ジ左記ノ藥品名及數量表ヲ送附シ右ハ日本ニ於テ得ラルル品ノミヲ揭ゲタルモノナルカコレヲ參考トシ日本赤十字社ヨリ藥品ノ送附ヲ受ケタキ希望ナル旨申越セリ


同仁會本部ヨリ搬出中ノ寄贈藥品

5000kilos methylated spirit one ton magnesium sulphate one ton sodium sulphate
五千瓩 メチールアルコール 一噸 硫酸マグネシウム 一噸 硫酸 ソーダ
one million persons oral vaccine against dysentery 100 kilos bismuth carbonate or subnitrate
百萬人分 經口 ワクチン 赤痢用 百瓩 炭酸 蒼鉛 又ハ 次硝酸蒼鉛
100kilos aspirin (powder and tablets) 50 kilos iodine 1000 barrels disinfectant fluid (cresol, izal, etc)
百瓩 アスピリン 粉末 及 錠劑 五十瓩 沃度 千 樽 消毒劑 クレゾールイザル
200 tons bleaching powder (chloride of lime) 5000pounds absorbent cotton
二百噸 漂泊 粉 鹽酸石灰 五千磅 脫脂綿
10,000 boxes of mospuito incense(punt) 10,000 dispensingbottles with corks(100cc)
一萬箱 蚊遣香 一萬本 藥瓶 コルク付
1000 kilos talcum powder 1000kilos boracic acid powder 1000 pounds surgical gauze
千瓩 石膏粉 千瓩 硼酸粉末 千磅 ガーゼ
10,000 assorted bandages 2000kilos rectified alchol (90%)
一萬卷 繃帶 二千瓩 强酒精

尙同仁會ハ此外、國民政府ノ注文依賴ニヨル如上ノ藥品以外ニ、同仁會經營ノ青島外各醫院ノ在庫適用品ヲモ此際取纏メテ寄贈セントシ、各醫院ニ通牒シテ其寄贈シ得ル藥品ノ數量ヲ取調ベサセ、何時ニテモ發送シ得ル樣準備セシメタノデアルガ、上述ノ如ク國民政府デハ此等一切ノ寄贈品ヲ拒絕スル樣ニナツタノデ各醫院ノ藥品寄贈ノ件モ其儘中止スルコト、ナツタノデアル。

第三節　勸誘寄贈ノ藥品

同仁會ハ第一節及ビ第二節ニ於テ說明セルガ如ク本會自體調辦ノ藥品寄贈ヲ計畫スルト同時ニ、全國各地ノ藥品材料商ニ對シ此際善隣ノ厚誼ヲ盡スベキ趣旨ノ下ニ、廣ク藥品材料ノ寄贈ヲ勸誘シタル處、陸續トシテ之ニ應ズルモノアリ、東京大阪其他各地ヨリノ申込者計四十余名五萬余圓ノ多額ニ達シタノデアル。之ニ前記赤痢豫防內服藥五萬人分ヲ合スレバ總額實ニ六萬八千五百拾壹圓五拾錢ノ巨額ニ上ツタ。右寄贈藥品ハ東京及大阪ノ二ケ所ニ集積シ、九月二十七日横濱出帆ノ阿蘇丸ニ積込ミ、又大阪附近ノ分ハ係員出張取纏メノ上同ジク同船ニ積込ミ發送ノ手配中ナリシニ、漢口出張中ノ小野理事カラ、國民政府ノ意向ヲ確メル必要ガアルカラ搬出方一時見合スベシトノ入電アリ、次デ同理事ガ漢口カラノ歸途上海デ劉瑞恒氏ニ對シ、該藥品ノ接收方ニ關シ協議シタルニ、國民政府ハ同情會ノ寄贈品ニ對スル態度ト同樣ニ此等ノ寄贈モ之ヲ收受シ難キ旨回答シテ來タノデ、同仁會ハ各寄贈者ニ對シ其旨通知スルト同時ニ發送手續中ノ現品ハ全部之ヲ取戻シ、各寄贈者ニ對シテハ叮嚀ニ事情ヲ說明シテ夫レ〳〵返還スルコト、シタ。然ルニ寄贈者ノ大部分ハ該品ノ返還ヲ望マズ、其處分方ヲ同仁會ニ一任セラル、旨申越サレタノデ、本會ハ之ガ處分方ニ付考究中デアルガ、結局本會所屬ノ各醫院ニ配給シテ寄贈者ノ本旨ニ基キ使用セシムル考ヘデアル。

右藥品寄贈者ノ芳名、藥品ノ數量價格ヲ示セバ次ノ通リデアル。

大阪ニ集積セル寄贈藥品

品目	數量	價格	寄贈者
特許皮膚科新劑 プシロール軟膏	一、〇〇〇個	二〇〇圓	東京市日本橋區岩月町六角 藤田宗次郎商店
赤痢、疫痢、大腸カタル用 ヨヂロイド	百瓦入 一〇〇個	七〇圓	東京市京橋區中橋廣小路 ラヂウム製藥株式會社 計　一二七〇圓
鎭痛鎭靜劑 ナルコポン	一、一cc 一〇〇個	八〇圓	
麻醉劑注射液 ナルコポン、スコポラミン	一〇〇個	一二〇〇圓	
コレラ豫防ワクチン	一五、〇〇〇人分	九七五圓	大阪市東區道修町二 福井七
ロイマチス神經痛劑 ロイチール注射液	四〇函	七二圓	東京市日本橋區本町 友田合資會社 計　九五二圓
イベトン注射液	二一〇函	二七九圓	
カタリザチン錠	二〇〇個	七〇圓	
小川式純硫酸銅桿	五〇個	三七、五圓	
フアゴール	五〇個	七二、五圓	
コンバーロン注射液	二〇函	一五圓	
同　粉末	二〇函	二〇圓	
アンチツ、シン	二〇函	三〇圓	
ウラルゴール	三〇函	五三圓	
アース噴霧器	一〇〇本	五〇圓	
アース原液	四罐	六〇圓	
サルチル酸ナトリウム	二二函	二二圓	
乳酸カルチウム	一函	一圓	
石炭酸軟膏	一六函	一四圓	

炭酸カリウム		一八函	八圓	東京市芝區三田三ノ三 三田製藥所
デシンフエクトル		一九函	九圓	
甘草末		一函	三圓	
ナフタリン末		一〇〇函	一二圓	
橙皮末		三九壺	一一圓	
投藥瓶	150cc	三、〇〇〇本	一〇五圓	
フルツソルト		四	八圓	
ロイチール		四〇函	七二圓	東府市日本橋區本石町四ノ一七 三輪傳二
リゾール		五〇磅	三〇圓	
スキンパッチ		二〇〇本	六〇圓	市外澁谷町猿樂五〇 合資會社小澤化學研究所 計 七五圓
エーボ		六〇個	一五圓	
ネオウリヒン		二〇〇函	三一〇圓	東京市日本橋區本町三ノ二 いはしや松本福松 計 五一〇圓
タンヴオニン		五〇瓶	二〇〇圓	
健胃錠		二〇〇本	三〇圓	東京市淺草區柳橋 合資會社秋艸正五郎商店 計 二五八、五圓
アスピリン錠		一五〇本	二二、五圓	
腹痛藥		一五〇本	三〇圓	
繃帶		七二〇本	一〇八圓	
三角巾繃帶		二二〇枚	三三圓	
精製ガーゼ	一米袋	三五〇個	三五圓	
わかもと		三〇〇打	一、八〇〇圓	東京市芝區芝公園六號地 わかもと本舖、營養と育兒の會
點眼瓶		一、〇〇〇本	五〇圓	東京市日本橋區本石町三丁目 鈴木惣八

チオノールカルチウム		二〇〇瓶	二〇〇圓	東京市日本橋區室町三ノ十 三共株式會社 計 五、〇〇〇圓
アルバルタン		三五〇瓶	六〇〇圓	
Aヂアスターゼ		一五〇瓶	五九〇圓	
防疫用石炭酸		二〇〇瓶	一一〇圓	
プノイミン	五〇瓦	五〇〇瓶	一、五〇〇圓	
同	一、二五〇瓦	三〇瓶	二、〇〇〇圓	
投藥瓶	一〇〇瓦入	一、七五〇瓶	二一圓	東京市日本橋區本町三ノ十五 森川惣助 計 三六圓圓
軟膏壺		二、〇〇〇瓶	一五圓	
歌橋亞鉛華ゴム絆創膏	罐入	五打	五〇圓	市外品川町 歌橋製藥所
鎭咳祛痰劑ジヤボニン		一〇本	二〇圓	東京市日本橋區室町三丁目 萬有製藥株式會社
ボスミン拾cc入外二點		一三〇本	一三二圓	東京市日本橋區江戸川橋三丁目 第一製藥株式會社
赤痢豫防內服藥		二〇、〇〇〇人分	一〇、〇〇〇圓	東京市芝區田村町六九 日本醫師會
チブスワクチン		一、〇〇〇本	一、〇〇〇圓	東京市芝區白金三光町 北里研究所
鎭咳祛痰新藥フスタギン外一點		一五〇本	一〇五圓	東京市丸ノ內三菱二十一號館 藤永藥品商會
カーボニン	一四四本入	一梱	一〇五圓	東京市神田區鍛治町九 和光堂本店
コルンエキス	三六〇瓦入	五〇個	一二五圓	東京市日本橋區本町三丁目 島居商店
巻軸繃帶		三〇函	三〇圓	東京市日本橋區小傳馬町一丁目 神原ガーゼ店 計 四〇圓
沃度フォルムガーゼ		三〇本	一〇圓	
赤痢豫防內服藥		三〇、〇〇〇人分	一五、〇〇〇圓	同仁會
目藥		五〇個	五〇圓	東京市日本橋區本町三丁目 島田久兵衛
止瀉整腸劑アドース		一〇、〇〇〇個	二、〇〇〇圓	大阪市東區道修町二ノ一 藤澤友吉

精製ガーゼ外二點		八〇〇反	一二〇圓	大阪市東區釣鐘町二丁目 合資會社今永商會
AO結核ワクチン		一〇〇盒	一、〇〇〇圓	大阪市西淀川區海老江上一ノ五七 有馬研究所
櫻印精製綿		一〇〇磅	五〇圓	大阪市東區京橋三丁目 大和工場營業部
仁丹		三〇、〇〇〇個	三、〇〇〇圓	大阪市東區堀町 森下博
大學目藥		一〇、〇〇〇個	二、〇〇〇圓	大阪市東區北濱町一丁目 參天堂株式會社三田忠幸
テルヒ		一〇個	一二圓	大阪市東區伏見町三丁目 日本藥品洋行 計 八一圓
エンテローン		一〇個	三五圓	
エルゾバン		一〇個	二〇圓	
アルワヂン		一〇個	一四圓	
ネオフストール		三〇個	一五〇圓	大阪市東區今橋三ノ十一 黑田藥品商會 計 七四〇圓
オイソート		一〇個	一八〇圓	
ピゾール液		五〇個	一六〇圓	
糖衣チアスターゼ	五〇〇錠入	五〇個	二五〇圓	
チプス豫防液		三〇〇個	三〇〇圓	大阪市此花區上福島中二丁目 大阪血清藥院 計 一、〇四〇圓
チプスワクチン		二〇〇個	二〇〇圓	
虎列剌豫防液		三〇〇個	三〇〇圓	
赤痢血清		一五〇個	二四〇圓	
パラヌトリン注射劑		一、七〇〇函	三、六五〇圓	大阪市東區道修町三ノ十二 株式會社鹽野義商店
内譯				
一c.c五管入		四五〇函		
一c.c五十管入		二五〇函		

三c.c五管入		六〇〇函		
五c.c五管入		四〇〇函		
深達性殺菌消毒藥 イスラピン		二〇〇個	二〇〇圓	大阪市東區道修町二丁目 武田長兵衞商店 計 一、九七三圓
キニーネ注射液 バクーン		一〇〇個	一六〇圓	
補血滋養強壯劑 ボリタミン		七二個	一八〇圓	
健胃強壯滋養劑 キナボリタミン		七二個	一八八圓	
水性カンフル注射液 ガダミン		一〇〇個	一二〇圓	
染傳性炎性疾患治療劑 クリオビン		二〇〇個	四三〇圓	
袪痰鎭咳劑 エバニン		一〇〇個	九五圓	
新吸着劑 アルシリン		二〇〇個	一五〇圓	
整腸消化劑 ビオフエルミン		五〇〇個	四五〇圓	
靈藥寳丹	三六〇〇包入	一五梱	一三、五〇〇圓	富山市千石町一二八 藤井論三
シユメルツ		五〇個	七五圓	千葉縣市川町 高橋理化學研究所
催眠鎭靜劑 ブロバリン末		五〇個	六五圓	京都市松原通千本西入 日本新藥株式會社 計 一八五圓
皮膚病新藥 ピチロールパスター		一〇個	二〇圓	
同チューブ入		三〇打	一〇〇圓	
キナボン注射液	一〇入	二〇〇個	三〇〇圓	大阪市東區道修町三丁目 田邊五兵衞商店 計 一、二二三圓
ヘパトキシン注射液	五入	四〇〇個	五二〇圓	
アスモン注射液	六入	一〇〇個	二三〇圓	
同 紛末	五〇瓦入	一〇〇個	一二〇圓	
同 錠劑	五〇瓦入	五〇個	五三圓	

喘息特効藥 エフエドリン注液一cc五入	「ナガイ」 六〇個		大阪市東區道修町三丁目 大日本製藥株式會社 計 一、〇一九圓
エフエドリン錠 一〇入	二〇〇個		
エフエドリン散劑二五瓦入	一〇個		
祛痰鎭咳劑 セキサノール末一〇〇瓦入	五〇個		
同 液一〇〇瓦入	一〇〇個		
同 錠 五〇入	二〇〇個		
整腸消化劑 ポリフエルミン 二五瓦入	二〇〇個		
緩下劑 ミレバール錠 二〇入	一〇〇個		
カンフル食鹽注射液2cc五入	六〇個		
赤痢治療劑 テネスミン注液射5cc五入	二〇個		
脚氣藥 ミヅホニン注射液1cc五入	五〇個		
同 2cc五入	五〇個		
總計		六八、五一一圓五〇錢	

以上ノ藥品授受ニ關シ小野理事劉主任間ノ往復文書ヲ掲グレバ左ノ如シ。

謹呈曩に閣下より同仁會に對し御申越に相成候赤痢經口『ワクチン』五萬人分の內一萬人分は已に御交付申上候處殘りの四萬人分も既に製藥完成致し居り候尙又同仁會の勸誘斡旋により藥種商藥材商等の寄贈に係る藥品（其一部は過般目錄書として呈示致置候）は發送方一時見合せ居り候へ共右は貴方に於て寄贈方御希望に候や否や此際小生まで御意向御洩らし被下候得ば幸甚の至りに御座候　小生は來る十二日當地出發歸國致すべく候に付出發迄に何分の御回答願上候

敬具

民國二十年十月九日

同仁會專務理事　小野得一郎

國民政府救濟水災委員會　衛生防疫組主任　劉瑞恒閣下

敬啓者承
詢同仁會提倡各葯行捐贈賑災葯品及赤痢疫苗等項因時事影響現時不能接收承
助初意仍所以感想邀
明鑒一切也專此奉覆即頌
勛綏此致
小野得一郎先生

劉瑞恒啓　十、九

第七章　慰問使ノ派遣

小野理事

同仁會ハ今回ノ中國水災ニ對シ以上各種ノ救護事業ニ從事シタ外、國民政府ニ對シ水害慰問ノ爲メ特ニ專務理事小野得一郎ヲ派遣シ、併セテ漢口醫院職員ノ慰問並ニ各診療班ノ統制及活動狀況ノ視察ヲ爲サシムル事トナリ、同理事ハ九月十四日第四診療班ト共ニ東京出發、仝十七日上海デ救濟會委員長宋子文氏ニ左記內田會長ノメッセーヂヲ手交シ、救濟會ノ各委員トモ交驩シテ其使命ヲ果シ、更ニ漢口ニ至ツテ職員ノ慰問、各診療班ニ對スル諸般ノ畫策、善後ノ事宜ヲ了シテ、十月四日漢口出帆、上海デハ再ビ前記藥品ノ交涉ヲ遂ゲ仝十五日歸京シタ。

左ニ內田會長ノメッセーヂヲ掲載シ、併セテ小野理事ノ報告ヲ摘錄スル。

中華民國救濟水災委員會々長　宋　子　文　閣下

大日本帝國東京　財團法人同仁會々長
伯爵　內　田　康　哉

謹　呈

貴國今次の水災は有史以來稀に見るの大災にして其の慘狀筆紙に盡し難く眞に傷神に堪へざるもの有之候同仁會は多年博愛同仁の精神に立脚し貴國關係者と連絡を密にし現に北京、漢口、青島、濟南の四醫院を經營し聊か醫藥衛生の普及に努め來り候關係に鑑み此の際貴國罹災民の慘狀に對し默視するに忍びず曩に漢口醫院職員を總動員して之を二班に分ち漢口地方の救療に從事せしめ居る外更に青島醫院より救護診療班を派遣急行せしめて之を第三班となし尙又今回東京に於いて留日中華醫師團を中心とする救護診療班を組織して之を第四班となし漢口地方に向け既に派遣の途上に在り。而して此等診療班の活動を敏活ならしむる爲め日清汽船株式會社所有船湘江丸を傭ひ上げ之を本據として外に小汽艇を以て陸上との連絡をとらしめ居り候

又本會は藥劑材料の寄贈を爲さんが爲め曩に貴政府劉衛生署長より要求せられたる藥劑の一部は既に是を調辨し汽船天城丸に積み込みたる外赤痢內服『ワクチン』の製造に着手せしめ居り候且又廣く藥劑材料商に對し藥劑の寄贈を勸誘し本會に於て之が荷造り回遣の衝に當り居り候是等救護班の活動並寄贈藥劑等が幾何にても貴國災民救護に資する處ありとせば本懷是に過ぐるもの無之候

玆に本會專務理事小野得一郎を貴國に差遣し親しく水難の狀況を視察せしめ謹而貴國今般の水難に對し深甚の同情を表し御見舞申上候

尙本書の大要は貴官より政府主席蔣介石閣下に御傳達相願度候

敬　具

民國貳拾年九月拾四日

昭和六年九月拾四日

小野理事報告

私ハ今回理事會ノ決議ニ基キ同仁會ヲ代表シテ民國政府ニ對シ水害ノ慰問ヲ爲スベク又漢口ノ職員一同ノ勞苦ヲ慰メ兼ネテ診療班ノ活動ヲ視察センガ爲去月十四日第四診療班ト共ニ東京ヲ出發シタ。而シテ十七日上海ニ到着スルヤ中國側要人多數ノ出迎ヲ受ケ實業部長孔祥熙氏ノ如キハ一行ノ爲ニ歡迎ノ茶會ヲモ催サレタ。

○

上海デハ先ヅ國民政府救濟水災委員會ニ委員長宋子文氏ヲ訪問シタガ不在ナリシ爲秘書處長曾鎔浦氏ニ對シ會長內田伯爵ノ慰問狀ヲ手交シテ傳達方ヲ依賴シタ。又同會衛生組主任劉瑞恒氏ニ會見シテ第四診療班全員ノ紹介ヲ爲シ、先ニ國民政府ヨリ同仁會ニ寄贈方ヲ申込ミタル赤痢經口『ワクチン』壹萬人分ヲ交付シ殘餘ノ四萬人分ト同仁會ガ全國的ニ勸誘シタル寄贈藥品ノ目錄ヲ提示シテ之ガ引渡方ニ付打合セヲ爲シタガ（寄贈藥品ハ總量約五十噸價格六萬圓餘ニ達シ九月廿七日橫濱出帆阿蘇丸ニ積込ム豫定）當時中國側ガ同仁會ノ救濟計畫及其活動ニ關シテハ少カラズ感激シテ居ラレタルコトハ十分ニ觀取スルコトガ出來タ。

夫ヨリ十九日未明上海ヲ出發シ途中南京ニ於テ滿洲事變ノ突發シタルヲ聞キ多少ノ不安ヲ抱キナガラ二十三日朝漢口ニ到着シタ。

○

漢口ニテハ先ツ漢口醫院ノ職員一同ニ對シ慰問ノ辭ヲ呈シ、携帶セル慰問品ノ分配ヲ爲シ次テ各診療班ノ班長ヲ集メテ是迄ノ診療狀況ニ基キ今後ノ出動方針ニ付キ會議ヲ開催シタ。當時漢口醫院ノ職員ヲ以テ組織セル第一班第二班ハ先ニ武漢衛生會議ニ於テ中國側ト協定シタル擔當區域即チ鐵道沿線、日本人公園、江漢中學校、日清ハルク、三井木廠等數ケ所ノ診療ヲ實施シテ居リ、又先着ノ青島班（第三班）モ漢陽方面ノ受持區域ニ出動シ盛ンニ診療中デアツタノデ、新ニ到着シタル東京班（第四班）ハ武昌方面ニ進出スルヲ最モ適當トシタノデアルガ、時恰モ滿洲事變突發ノ爲武漢ノ民心非常ニ硬化シ、就中武昌方面ハ最モ險惡デアツタ爲ニ若シモ同方面ニ出動セントスルナラバ是非トモ中國官權ノ援助ヲ必要トスルノデ、之ヲ水災委員會武漢分會防疫主任タル金寶善氏ニ相談シタルニ、金氏ノ態度ハ極メテ冷淡デアツテ此際政府當局トシテハ同仁會ニ對シ此上救護方ヲ御依賴スル事ハ不可能デアル。又排日思想ノ旺盛ナル今日ノ場合ハ地方ニ於テ萬一ノ事故ヲ惹起スルモ責任ヲ負フ事ハ出來ナイト云フノデアツタ。而ノミナラズ先ニ第三班ガ診療ヲ引受ケ居リシ漢陽ノ方面サヘ中國側ハ新ニ診療設備ヲ整ヘテ第三班ノ出動ヲ阻止セントスル意向ノアル事ヲ觀知シタノデ、此上ハ危險ヲ冒シテマデ此等ノ方面ニ出動スルモ到底救護ノ目的ハ達シ得ザルモノト看取シ、總領事トモ協議ノ上本部ノ承認ヲ得テ遂ニ第三班及第四班ヲ引揚グルコトニシタ。而シテ第三班ハ十月二日、第四班ハ仝四日夫レ〳〵漢口ヲ出發シテ歸途ニ就イタノデアル。

○

只ダ漢口醫院ノ救護班ハ其擔當區域ガ比較的安全地帶デアルト醫院ノ現在地ノ故ヲ以テ引續キ診療出動ヲ繼續スルコトニシタ。

○

以上ハ診療班引上ゲノ事情デアルガ尙寄贈藥品ノ處分ニ付テハ先ニ國民政府ハ日本水災同情會ノ寄贈品ニ對シテ拒絕ノ態度ヲ取ツタノデアルガ、同仁會ノ寄贈品中ニハ先方ノ注文ニ依リ特ニ製造シタル藥劑モアリ、又上海ニ於テ劉氏ト引渡方ニ付協定シタル關係モアルノデ此分ハ多分喜ンデ受領サルヽコトヽ考ヘラレナイコトモナイノデ、私ハ漢口ノ歸途十月八日上海ニ於テ右藥品問題ニ付中國側ノ意向ヲ訊シタノデアル。然ルニ中國側ハ南京政府ト熟議ノ結果十月十日ニナリ劉瑞恒ノ名ヲ以テ接收不能ノ旨ノ回答書ヲ送付シ來ツタノデアル。

此ノ如クシテ同仁會ノ中國水災救護ノ計畫ハ全ク頓挫シタノデアルガ、一方水災避難民ノ狀況ヲ見ルニ汎濫後二ケ月以上ヲ經過シタル今日ニ於テモ其慘狀ハ依然トシテ毫モ救ハレタル模樣モナク、現ニ漢陽ノ一角赫山ノ收容所丈ケデモ毎日ノ死亡者五六十人ヲ下ラナイト云フ有樣デ、中國政府ノ救護事業ハ殆ド名ノミニシテ何等ノ實績ヲ擧ゲテ居ラヌ。此時ニ當リ技能ト實質ヲ整備セル我ガ診療班ヲシテ遂ニ其目的ヲ拋棄シ空シク引上グルノ無已ニ至ラシメタルガ如キハ實ニ痛恨事ト云ハザルヲ得ナイノデアル。

第八章　經費

本救護事業ノ爲メ當初編成セル豫算總額ハ金六萬五千圓デアツタガ、途中滿洲事變勃發ノ餘波ヲ蒙ツテ一部事業ノ遂行不能ニ終ツタガ爲メ相當減額ヲ生ジ、總支出經費ハ金四萬一千八百二十八圓九十錢トナツタ。

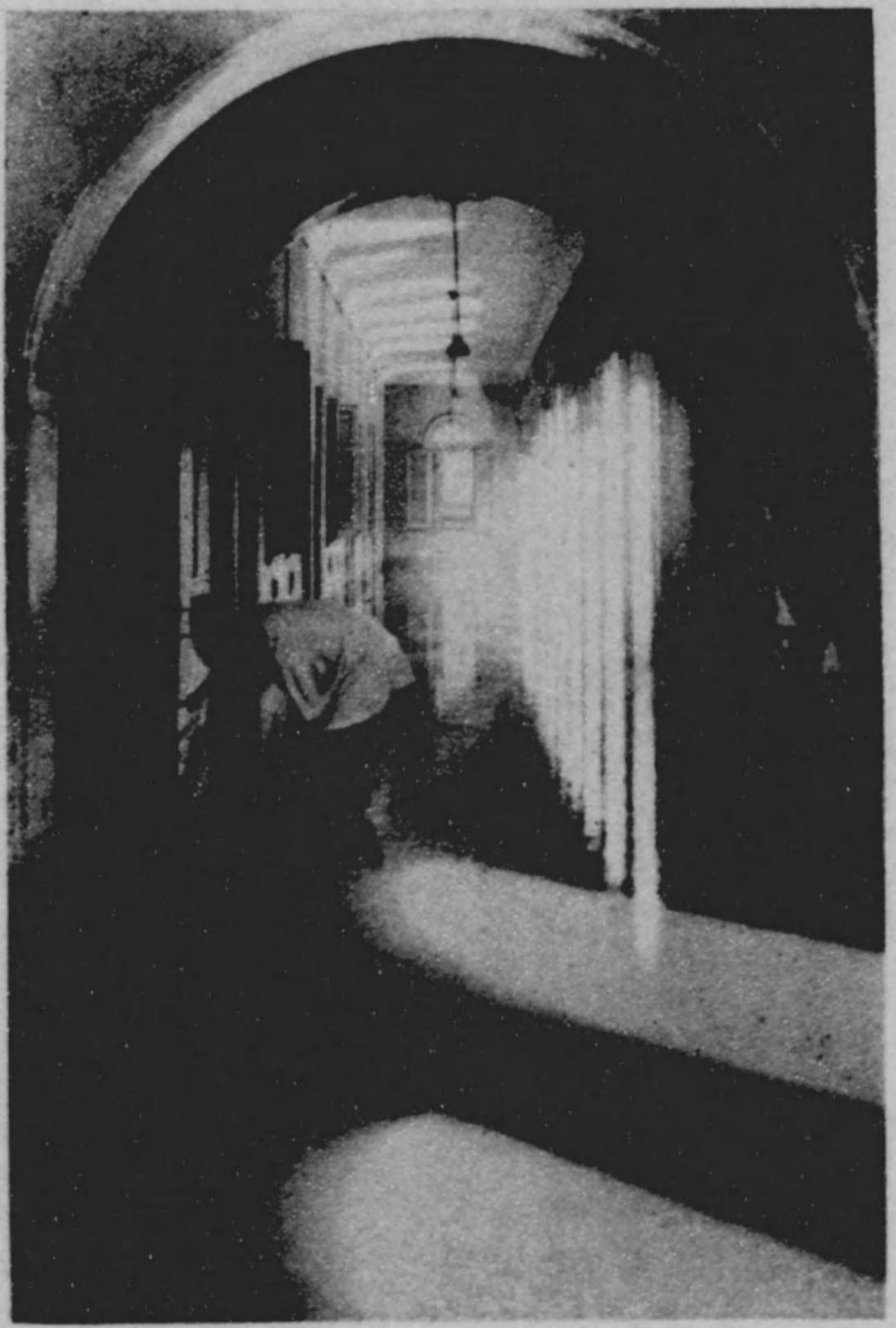
右ノ內中華民國水災同情會カラ分讓ヲ受ケタ額ハ金三萬三千三百三十六圓八十一錢デ、殘額金八千四百九十二圓九錢ハ國庫ノ補助ニ依ツタモノデアル。

收支計算ハ別ニ作製シタノデアルガ此ニハ之ヲ抄錄スルニ止メタ譯デアル。

第九章　結語

以上各章ニ亘ツテ記述セル如ク、中國水災ニ對シ同仁會ノ採レル處置ハ誠ニ機宜ニ適シタルモノト云フベク、十分ニ其天職ヲ發揚スベキ好期ニ際會シタモノデ、前半ニ於テハ諸事頗ル順調ニ進捗シ、殊ニ其診療班ノ如キハ規模ニ於テ又內容ニ於テ國民政府組織ノ武漢衛生機關ニ比シ敢

テ遜色ナク、第三、第四兩班ノ漢口到着ニヨッテ將ニ其眞價ヲ發揮セントシツヽアツタ際、不幸ニモ滿洲事變ノ突發スルアリテ形勢ハ俄然一變シ、遂ニ手ヲ空シクシテ歸還スルノ止ムヲ得ザルニ至ツタノハ誠ニ遺憾ノ至リニ堪エザル所、殊ニ藥品類ノ寄贈ニ至ツテハ僅ニ其一端ヲ果シタニ過ギナカツタガ、然シ同仁會ノ精神ノアル處ハ此擧ニ依テ深ク中華民國上下ノ人士ニ徹底セシムルコトヲ得、其心裏ニ好印象ヲ與ヘ得タルコトヲ確信スル次第デ、又以テ自ラ慰ムルニ足ル所以デアル。



漢口醫院内ノ浸水

附錄

一、同仁會診療班（漢口醫院編成第一第二豫備班）經理規定

第一條　本規定ハ長江水難傷病者診療救護及防疫事業ノ爲メ漢口醫院ニ於テ編成スル診療班ノ諸給與並ニ諸經費支出ニ關スル事項ヲ規定ス

第二條　班員總務部員（豫備班ヲ除ク）俸給給料宿舍料ハ左ノ區分ニ依ル

一、本會在職者ハ本俸在勤加俸共現給額ニ依ル但シ宿舍料ハ本屬醫院經費ノ支辨トス

二、臨時採用者ハ採用額ニ依リ在勤加俸及宿舍料ヲ給セス

三、採用及解職等ノ爲メ支給上一ヶ月ニ滿タサル日數アルトキハ凡テ日割計算ニ依ル

第三條　班員ニハ附表第一ノ救護手當及食事ヲ給ス但シ總務部員及臨時從業者ニ在リテモ本文ニ準シ給與ヲ爲スコトヲ得

第四條　前條ノ給與ハ診療防疫ノ業務實施ノ爲メ現場ニ出動ノ場合ニ限ルモノトス但シ狀況ニヨリ出動ノ前後ニ於ケル準備整理ノ時間ヲモ含有セシムルコトヲ得

第五條　前各條ノ外救護班ニ要スル諸經費ハ實際ノ必要ニ應シ且本會給與規程ノ準用ニ依リ凡テ實費支辨トス

第六條　醫療器械器具藥劑材料竝ニ備品被服品消耗品等ニシテ本會醫院在庫品ヲ繰替使用シタルトキハ診療班經費ヲ以テ復舊若クハ戻入ヲ爲スコトヲ得

第七條　診療班ノ經費ハ本部ヨリ直送或ハ交附スルヲ原則トスルモ時宜ニヨリ本部及醫院金ヲ以テ直接支辨若クハ交附シタルモノハ假拂トシ後日戻入整理ヲ爲スモノトス

第八條　本經費ノ名稱ハ救護事業費トシ附表第二ノ科目區分ニ依リ事業開始ヨリ終結迄ヲ以テ一期間トシ整理スルモノトス

附
一、診療班編成前及解散以後ニ於テ診療ニ從事スルモノノ給與ハ俸給給料ヲ除キ他ハ本規定ニ依ルモノトス
二、本事業ノ收支ハ全然別個トシテ取扱フモノトス
三、本事業ノ收支ハ各班ニ區分セス凡テヲ合併シテ整理スルモノトス

附表第一　救護手當及食事額表

醫院在職者區分	救護手當日額	食事定額	摘要
院長	四円〇〇	常時醫院炊事ニ於ケル職員以下ノ食事ヲ標準トシ現品給與トス	一、救護手當ハ出動半日以内ナルトキハ日額ノ二分ノ一半日以上ニシテ一日ニ滿タサルトキハ相當割合ヲ以テ減額スルモノトス 二、食事ノ給否ハ前項ニ準シテ之ヲ決定スルモノトス但シ時宜ニヨリ代金ヲ以テ給與スルコトヲ得 三、前二項ノ給與上ニ關シ令達ノ豫算範圍内ニ於テ支辨スルコト能ハサルトキ若クハ實情ニ鑑ミ本定額ノ減少ヲ要スルトキハ漢口醫院長ハ本定額ノ一部ヲ減少シ若クハ支給ヲ停止スルコトヲ得 四　臨時採用者ハ其待遇區分ニ基キ醫院在職者ニ準スルモノトス 五、本表金額ハ支給上ノ便ヲ顧慮シ漢口醫院長ニ於テ豫メ一定ノ銀額ヲ換算決定シテ支給ヲ爲スコトヲ得
醫長	三六〇		
醫員			
藥局長	三二〇		
事務長			
醫員			
調劑員			
事務員	二二〇		
技術員			
看護婦長			
看護婦			
助產婦	一四〇		
雇員			
傭人	〇九三		

附表第二　救護費收支整理科目表

區分	科目	摘要
收入	救護資金	本部ヨリ資金トシテ交附金
支出	救護事業費	
	俸給諸給	
	俸給	醫長、醫員、調劑員、事務員、看護婦ノ俸給
	諸手當	班員團體行動間ノ旅次手當
	雇傭給	雇員傭人給料及船員舟夫等ノ給料
	旅費	單獨旅費及團體ノ實費支辨旅費傭船内請負賄費竝支度料
	治療費	
	藥劑材料費	藥品、治療材料一切ノ費用
	醫療器械費	醫療用器械器具新調補塡復舊修理ノ費用
	需用費	
	備品費	特ニ要スル備品代及携行用備品類ノ復舊修理費
	被服費	特ニ要スル被服品代及携行用被服品ノ復舊修理洗濯費
	消耗品費	消耗諸品一切ノ費用
	通信運搬費	通信運搬ニ要スル一切ノ費用
	燃料費	傭船用燃料代
	借家傭船料	診療所及事務室ノ借入代及傭船料
	雜費	以上各費目ニ入ラサル一切ノ費用

註一、他診療班ノ經費ヲ支拂ヒタルトキハ後日入戾整理ヲ爲スヲ通則トスルモ已ムヲ得サルモノアルトキハ相當科目ニテ整理決算シ重複セサル如ク其旨證憑書ニ明記スルト共ニ當該班ニ通報ヲ爲スヘキモノトス

二、同仁會診療班（第三第四班）經理規定

第一條　本規定ハ長江水難傷病者救護ノ爲メ臨時派遣ノ診療班ニ關スル諸給與竝ニ諸經費支出ニ關スル細部ヲ規定ス

第二條　班員ノ俸給給料宿舍料ハ左ノ區分ニ依ル

一、本會在職者ハ本俸在勤加俸共現給額ニ依ル但シ宿舍料ハ本屬醫院經費ノ支辨トス

二、臨時採用者ハ採用額ニ依リ在勤加俸及宿舍料ヲ給セス

三、採用及解職等ノ爲メ支給上一ケ月ニ滿タサル日數アルトキハ凡テ日割計算ニ依ル

第三條　旅費ハ單獨及團體旅費ニ分ツ

編成地到着迄及解散地ヨリ歸着迄ノ間ハ單獨旅費トシ本會給與規程第一號表日當宿泊料ノ八割五分額ヲ給ス

編成地滯在間及出發後竝ニ救護地行動間ハ凡テ團體旅費トシ本會給與規程第一號表日當宿泊料ノ五割ニ相當スル額以內ヲ以テ實費支辨ス但シ傭船內宿泊ノ場合ニ於ケル給養ハ本部ニ於テ當該汽船會社ト契約ノ額ニ依ル

第四條　前條實費支辨ノ期間ハ個人ニハ旅次手當ヲ支給ス其額ハ本會給與規程第一號表日當宿泊料ノ二割額トス

第五條　支度料ハ日本ヨリ出發ノモノニハ本會給與規程第四號表定額ノ七割中國ヨリ出發ノモノニハ同定額ノ四割五分額ヲ給ス但シ高低額アルモノハ最高額ニ依リ算定スルモノトス

第六條　傭人ノ日當宿泊料及支度料ハ看護婦雇員ノ三分ノ二額トス

第七條　現地採用ノ班員ニハ旅次手當ハ支給スルモ支度料ヲ給セサルモノトス

第八條　編成地出發後一ケ月以內ニ於テ自己ノ都合ニ依リ歸還スルモノ、支度料ハ其ノ半額ヲ返還セシム

第九條　前各條ノ外診療班ニ要スル諸經費ハ實際ノ必要ニ應シ且本會給與規程ノ準用ニ依リ凡テ實費支辨トス

第十條　醫療器械器具藥劑材料竝ニ備品被服品消耗品等ニシテ本會醫院在庫品ヲ繰替使用シタルトキハ診療經費ヲ以テ復舊若クハ戻入ヲ爲スコトヲ得

第十一條　診療班ノ經費ハ本部ヨリ直送或ハ交附スルヲ原則トスルモ時宜ニヨリ本部及醫院金ヲ以テ直接支辨若クハ交附シタルモノハ假拂トシ後日戻入整理ヲ爲スモノトス

第十二條　本經費ノ名稱ハ救護事業費トシ附表第一ノ科目區分ニ依リ事業開始ヨリ終結迄ヲ以テ一期間トシ整理スルモノトス

附　本規定ニ依ル旅費手當支度料ノ算定額ハ附表第二ノ通リ

附表第一

救護費收支整理科目表

區分	科目	摘要
收入	救護資金	本部ヨリ資金トシテ交附金
支出	救護事業費	
	俸給諸給	
	俸給	醫長、醫員調劑員、事務員、看護婦ノ俸給
	諸手當	班員團體行動間ノ旅次手當
	雇傭給	雇員傭人給料及船員舟夫等ノ給料
	旅費	單獨旅費及團體ノ實費支辨旅費傭船內請負賄費竝支度料
	治療費	
	藥劑材料費	藥品、治療材料一切ノ費用
	醫療器械費	醫療用器械器具新調補塡復舊修理ノ費用
	需用費	
	備品費	特ニ要スル備品代及携行用備品類ノ復舊修理費
	被服費	特ニ要スル被服品代及携帶用被服品ノ復舊修理洗濯費
	消耗品費	消耗諸品一切ノ費用
	通信運搬費	通信運搬ニ要スル一切ノ費用
	燃料費	傭船用燃料代
	借家傭船料	診療所及事務室ノ借入代及傭船料
	雜費	以上各費目ニ入ラサル一切ノ費用

註　一、他診療班ノ經費ヲ支拂ヒタルトキハ後日入戻整理ヲ爲スヲ通則トスルモ已ムヲ得サルモノアルトキハ相常科目ニテ整理決算シ重復セサル

如ク其旨證憑書ニ明記スルト共ニ當該班ニ通報ヲ爲スヘキモノトス

附表第二　診療班旅費手當支度料算定表

區分	同仁會給與規程第一號表定額			單獨旅費日額			團體旅費日額		旅次手當	支度料	
				一號表八割五分額			一號表五割額	傭船內	日額一號表二割額	日本ヨリ出發者	中國ヨリ出發者
名稱	日當	宿泊料	計	日當	宿泊料	計	一泊三食分	給養三食分		四號表七割額	同表四割五分額
醫長	圓 八、〇〇	圓 一〇、〇〇	圓 一八、〇〇	圓 六、八〇	圓 八、五〇	圓 一五、三〇	圓 九、〇〇	本部ニ於テ汽船會社ト契約ノ額ニヨル請負賄	圓 三、六〇	圓 二一〇、〇〇	圓 一三五、〇〇
醫員	七、〇〇	九、〇〇	一六、〇〇	五、九五	七、六五	一三、六〇	八、〇〇		三、二〇	一七五、〇〇	一一二、五〇
調劑員	五、〇〇	六、〇〇	一一、〇〇	四、二五	五、一〇	九、三五	五、五〇		二、二〇	一四〇、〇〇	九〇、〇〇
事務員	五、〇〇	六、〇〇	一一、〇〇	四、二五	五、一〇	九、三五	五、五〇		二、二〇	一四〇、〇〇	九〇、〇〇
看護婦	三、〇〇	四、〇〇	七、〇〇	二、五五	三、四〇	五、九五	三、五〇		一、四〇	一〇五、〇〇	六七、五〇
雇員	三、〇〇	四、〇〇	七、〇〇	二、五五	三、四〇	五、九五	三、五〇		一、四〇	一〇五、〇〇	六七、五〇
傭人	二、〇〇	二、六六	四、六六	一、七〇	二、二六	三、九六	二、三三		〇、九三	七〇、〇〇	四五、〇〇

註　一、同仁會給與規程第一號表定額ハ昭和五年八月十五日其ノ一割五分ヲ減額セラレタリ

二、團體旅費（一泊三食分ノ額）ハ其ノ人員ニ對スル合計日額內ヲ以テ適當ニ宿泊給養ヲ行フモノトス

同仁會中華民國水災救護診療事業報告

昭和六年十二月二十五日印刷　（非賣品）
昭和七年一月一日發行

編輯者　同仁會
東京市神田區北神保町二〇
發行者　同仁會
印刷者　野口活版所
東京市本所區林町二ノ三

發行所　財團法人　同仁會

同仁會發行書目

華譯醫書

東京帝國大學教授 醫學博士 西成甫先生著
東京帝國大學 醫學士 張方慶先生譯
▼解剖學
菊判型三百頁 布裝背入金字 染色並單色挿圖二百餘 印刷極其鮮明 正價銀五元 郵費銀三角

東京帝國大學教授 醫學博士 林春雄先生著
東京帝國大學 醫學士 劉懋淳先生譯
▼藥理學
菊判型五百頁 布裝背入金字 染色並單色挿圖七拾餘 印刷極其鮮明 正價銀四元 郵費銀四角

東京帝國大學教授 醫學博士 磐瀨雄一先生著
東京帝國大學 醫學士 張方慶先生譯
日本 醫學博士 湯爾和先生校譯
▼產科學
三三判（大型）七百頁 布裝背入金字 染色並單色挿圖三百五十餘 印刷極其鮮明 正價銀拾貳元 郵費壹元

東京帝國大學 醫學博士 阿部健先生著
楊蔚蓀先生譯
▼局所麻醉
三三判（大型）五拾餘頁 圖解四拾餘 正價銀壹元 郵費在內

同仁會支那衛生叢書（日本文）

第一輯 ライピマン博士報告 同仁會譯
▼中華民國醫事衛生の現狀
四六判型百三十頁 定價金五十錢

第二輯 同仁會調查部編
▼上海醫藥界の現狀
菊判型百頁 定價金七十錢

第三輯 同仁會編譯
▼中國醫界の新思潮
四六判型百七十頁 定價金七十錢

第四輯 石戶谷勉先生著
▼北支那の藥草
菊判型百二十頁 定價金七十錢

雜誌

東京帝國大學名譽教授 醫學博士 入澤達吉先生監修
同仁會發行 月刊雜誌
▼同仁醫學
三三判型 每月一回一日發行 誌費一部銀二角 定閱全年（十二冊）銀二元 郵費在內（華文）

同仁會發行 月刊雜誌
▼同仁
菊判型 每月一回一日發行 誌費一部金貳拾錢（日本文）

書

同仁會編
▼醫院專用 日華會話乃栞
四六判型三百餘頁 布裝背入金字 日本文定價金壹圓

東京帝國大學名譽教授 醫學博士 入澤達吉先生序
日本各醫科大學二十二博士執筆
▼家庭常識四季の衛生
四六判型百五十頁 定價金四十錢

慶應義塾大學教授 醫學博士 秦佐八郎先生
東京帝國大學教授 醫學博士 宮川米次先生
同仁會漢口醫院長 醫學博士 武正一先生
其他諸先生講演
▼中華民國醫師講習錄
三三判型三百頁 正價銀二元 郵費在內（華文日文對譯）

醫學博士 小川玄々子著
▼醫者の見た歐米
菊判型百八十餘頁（日本文） 定價金七十錢

發行所並發賣所

東京市神田區北神保町二十番地 財團法人同仁會

中國經理處
中華民國北平東城三條胡同 同仁會北京醫院
同 漢口日本租界山崎街 同仁會漢口醫院
同 青島江蘇路 同仁會青島醫院
同 濟南商埠地 同仁會濟南醫院

中國總經售處
上海北四川路底 內山書店

中國寄售處
上海北四川路魏盛里 內山書店雜誌部
上海法大馬路 啓智書局
上海山東路 有正書局及各埠分局
漢口第三特別區太平街 思明堂書店

61
411